

令和6年度使用小学校教科用図書 調査研究 報告書 (調査員)

教科 国語科 代表者名 黒川 以壽美

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
東京書籍	・第2学年以上の各巻巻頭には、当該学年で学習する「言葉の力」を見通すことができるように、「言葉の力を集めよう」を設けている。(2年上P.6-P.7) ・単元の冒頭と終わりに「言葉の力」として、基礎・基本となる重要な内容を明示している。(2年上P.38,P.48) ・前学年の漢字について復習するページ「漢字を使う」では、生活の場面に即して漢字を使うように工夫してある。(4年上P.27) ・教材文の下に言葉や新出漢字を掲載し、意味や絵、漢字の読み方が示されている。 ・2次元コードにアクセスすると、「言葉」教材や漢字の練習問題を通して、基礎・基本の定着を図ることができる。 ・巻末には「デジタル資料を活用しよう」「学習で使うことば」「言葉の広場」といった新出漢字、既習の漢字、言葉の習得に関するページを設けている。	・学ぶ道筋を「ふりかえり」から「活用」まで含めた5つのステップで示し、学び方を明確にしている。(2年下P.5) ・環境、情報化社会、防災・安全、戦争・平和など現代社会が直面する課題を主体的に解決する力を培うための教材を工夫している。(3年下P.76) (4年上P.134) (5年P.44) ・見開き2ページに渡る単元扉にダイナミックな写真や挿絵を掲載し、教材への興味、学習意欲を引き出すとともに、単元で身に付けたい「言葉の力」や「学習の流れ」を簡潔に示して、学習の見通しがもてるように工夫されている。 ・単元の終わりにも見開き2ページに具体的な学習の流れを示すとともに、ノート例、発言例を掲載し、それらを参考にしながら児童が自ら学んでいくことができるように工夫されている。 ・学年ごとに発達段階に応じて国語のノートの書き方を示している。第3学年以上ではデジタルノートの作り方を示している。(4年上P.10-P.13)	・それぞれ学年の同時期に同領域の学習を配置して同様に学べるようにしている。 ・新しく教材として掲載された物語文は、児童の日々の生活に近い、学校での出来事が題材となっており、人物の心情を児童が理解しやすい構成となっている。(5年P.16) (6年P.16) ・「読むこと」と「書くこと」の単元の間に小単元「情報のとびら」を配置し、両単元を関連させる学習が設定されており、単元間につながりをもたせる工夫がある。(4年下P.8-P.26)	・入門期冒頭教材では絵本のような親しみやすい絵が提示されている。(1年上P.1-P.7) ・単元末の「言葉の力」では、付けたい力を簡条書きで示すとともに図解によって直感的に理解しやすいように工夫されている。(5年P.54) ・説明的な文章や文学的な文章の単元の初めに、学習の興味付けとなる文章とそれに関する大きめの写真に掲載している。(2年下P.46) (4年上P.40) ・「付録」に教材文(3年下P.60)と関連した実際の点字の表や手話などが付けられている。(3年下P.165-P.166) ・特殊音節の指導において、音を記号で示したり、手を叩いたり握ったりする動作をイラストで表したりすることで、イメージしやすい工夫をしている。(1年上P.58-P.59) ・色を効果的に用いて、助詞の役割を分かりやすく示している。(1年上P.36)	・単元末の「取り組む」ではどのような言語活動を通して「言葉の力」を身に付けるのか示している。 ・単元末の「ふりかえる」では、「生かそう」コーナーで、他教科や日常生活での「言葉の力」の活用を促すとともに、「こんな本もいっしょに」コーナーを設け、教材文に関連する図書を紹介するだけでなく、読書を進めるポイントを示している。(2年上P.72) (3年下P.56) ・「書くこと」の領域では、物語や詩、手紙を書く活動を設定している。(3年上P.80)

令和6年度使用小学校教科用図書 調査研究 報告書 (調査員)

教科 国語科 代表者名 黒川 以壽美

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
教育出版社	・各学年巻頭に「〇年生で学ぶこと」というページがあり、どのような学習をしてどのような言葉の力をつけるのか領域ごとに整理して示されている。「言語・漢字」「読書」についても示されている。 ・教材文の下に新出漢字は○、新しい読み方は●をつけて示している。重要語句を示している。意味や補足がしてある。 ・単元末に「ここが大事」コーナーを設けて、児童が身に付けさせたい力が示されている。 ・言葉について考える教材においては、日常の言語生活から取り上げて、言語的な知識を深められるようにしてある。(4年上P.124) ・「読むこと」の単元の「学習のてびき」に「言葉」「言葉をふやそう」コーナーで、文脈の中での特徴的な語句の使い方を取り上げている。(3年P122)	・各学年上巻の冒頭を「国語学習への導入」として、「話すこと・聞くこと」のアイスブレイク教材や音読教材による学習開きを行い、1年間の国語学習への意欲を高めることができるように工夫している。(3年上P.7-12) ・動画や筆者の情報など、「学びリンク」というものが示されている。児童が主体的に調べられる用意がしてある。 ・「読むこと」の単元においては、単元扉に示された「学習のめあて」から本文、「学習のてびき」に示された「学習のめあて」と「ふり返ろう」「ここが大事」まで、学習の流れが示されている。また、児童が学習の見通しをもてるようにしてある。ノート例や学習例が示されている。(3年下P.120-P.123)	・学年間と学年を通して系統的な単元構成を意図している。 ・複数の領域を関連させて効果的に関連を図る「関連単元」と、一つの領域に集中して学習する「基本単元」がバランスよく配置されている。	・第1学年の最初の教材では、日常生活を取り上げた親しみやすいイラストを掲載し、児童の想像力を広げて言葉を引き出していくことができるように工夫されている。(1年上P.1-5) ・文字の大きさを変えて、動物の体の大きさに合わせて大きな声で読むことを意識付けたり、小さな文字で書いて小さな声で読む違いを視覚的に示している。(1年上P.28) ・教材文の中に(4年下P.98)と関連した実際の点字の表や手話のイラストが本文の中で示されている。	・単元末の「学習のてびき」に「学習のめあて」を示し、めあての下には、どのような言語活動を通して学ぶのかを明示している。(2年下P.102) ・単元末に「ここが大事」として、単元ごとの身に付けたい内容を児童に意識付けしている。(3年上P.41)(5年下P.20) ・「書くこと」の領域では、リーフレットや手紙、学級新聞を書く活動を取り上げて設定している。(4年上P.58,P.64,P.102)

令和6年度使用小学校教科用図書 調査研究 報告書 (調査員)

教科 国語科 代表者名 黒川 以壽美

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
光村図書	・「国語の学びを見わたそう」として、当該学年の学習内容が前学年の内容と比較して示されている。(4年上P8-P.9) ・新出漢字の筆順が単元の最後のページに示されている。(2年上P121)また「漢字の広場」では、生活の中で漢字が活用できるように考えられている。(4年下P.98) ・学習の参考になるよう、巻末に「これまでに習った漢字」「この本で習う漢字」「伝え合うための言葉」「学習に用いる言葉」「言葉のたから箱」「図を使って考えよう」などにまとめてあり、他教科の学習でも役立つことができるようにしてある。	・第2～6学年の教材文の後の「問いをもと」という設定があり、問題解決的な学習の計画を立てることができるように工夫している。 ・第2学年以上の上巻および第5,6学年の冒頭に「国語の学びを見わたそう」として1年間の国語科の学習の見通しをもつことができるようにした上で、できるようになりたいことや、楽しみな学習を書きおく欄を設けている。(4年上P.5-P.13)さらに下巻には1年間の学びを振り返り、どんな力がついたかを記入し、1年間の学びがつながるように工夫されている。(4年下P.144) ・第2～6学年の始めに「言葉のじゅんぶ運動」(話すこと・聞くこと)「詩を楽しもう」(読むこと)「楽しく書くこと」(書くこと)において、短い時間でできる活動が設定され、新学年が始まるときの児童の緊張感を解きほぐし、学習意欲を高めていくことができるよう工夫している。(5年P18-P.23) ・教科書の随所にQRコードがあり、自分で課題を解決することができるように配置してある。 ・環境や平和問題など、問題解決的な学習を進めることができるようにしてある。(5年P.149)(5年P.160)(6年P.272)	・古典の世界、俳句短歌、日本の文化を紹介する説明的な文章が取り上げられている。(6年P.155) ・各学年にSDGsに関連する内容をテーマにした教材を位置付けている。(5年P.78,P.171,P.222,6年P.123,P.173,P.210)巻末にSDGsに関連した図書を紹介するコーナーを設けている。(5年P.271,6年P.284)	・入門期の児童が親しみやすいような絵を多く用い、一緒に学びながら言葉を広げていく国語科をイメージしながら児童が話しやすい工夫をしている。(1年上P.2) ・パズルの形で助詞のつながりを意識させ、つながりを分かりやすく示している。(1年上P.42) ・第5学年に教材文(5年P.257)と関連した実際の点字の表や手話などが示されている。	・単元末の「学習のてびき」に、「問い」「目標」を示すとともに、どのような言語活動を行うのか例示して、見通しをもてるようにしている。(2年上P.52)(5年P.246) ・単元の後に「コラム」として「話し方や聞き方」や「アンケート調査の仕方」などを取り上げ、国語科や他教科で活用できるように工夫している。(4年上P.48,P.98) ・単元末の「学習のてびき」の「この本、読もう」コーナーで、単元の学習と関連させて様々な本を紹介するだけでなく、読書を進めるポイントを示している。(2年上P.72)(3年下P.56)

令和6年度使用小学校教科用図書 調査研究 報告書 (調査員)

教科 書写 代表者名 黒川 以壽美

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
東京書籍	・正しい姿勢や始筆・送筆・終筆、点画から点画への筆の動きが擬態語や擬音語で示してある。 ・第1・2学年は文字を書く姿勢を学ぶための書写体操が紹介されている。(1年P.2)(2年P.4-P.5) ・見開き2頁に用具の準備や片付け方がまとめて示している。左手で書く場合も示されている。(3年P.4-P.5) ・QRコードで動画や資料を見ることができる。真上から撮影したナレーション付きの運筆動画が示されている。 ・第3学年以上の各学年の巻末には「書写のかぎ」コーナーがあり、指導された基礎的・基本的な内容が第1学年からさかのぼって示されている。(3年P.44-P.47)	・第2から6学年で書写の学び方として、「見つけよう」「たしかめよう」「生かそう」「ふりかえろう」「生活に広げよう」という5段階の学習の過程を示している。(2年P.2-P.3) ・單元ごとに自己評価の観点を示し、自分でふりかえったり、友達と話し合ったりするように示している。(4年P.10) ・巻末に無地の水書用紙が添付されている。(1年,2年) ・良い例と悪い例を比較させることで、ねらいに迫る活動を仕組んでいる。(5年P.16) ・全学年を通して、直接教科書に書き込んで練習することができるように工夫している。	・「文字といっしょに」というコーナーを設け、伝統的な文化に関する事柄、文字や文字文化、書写に関する事柄を学年に応じて取り上げている。(5年P.32) ・各学年で単元の配列が「ほぼ同じ」になっており、系統性を重視して学習が積み重ねられるようにしている。 ・文字を整えて書くポイントとして、また系統的に整理された学習事項のそれぞれのポイントを「書写のかぎ」として示し、発達段階を考慮して端的で分かりやすい説明が記述されている。(2年P.8-P.9) ・身近な硬筆の文字から課題を見出し、毛筆の学習で確かめた後、書写の学びを日常の硬筆に生かすような構成になっている。	・第3学年以上で2色の淡墨を使って、穂先の通り道や、筆使いなどが分かりやすく掲載されている。 ・「文字」「学び」「生活」「文字」などマークを使って、文字文化や他教科、日常生活とのつながりが目次で確認できるようにしてある。	・「生活に広げよう」を設定し、絵日記や生活作文など、国語と連動させた言語活動を取り上げ、日常生活につながるようにしている。(1年P.23) ・実際の場面でどのように書いたらよいか具体的に児童に考えさせている。(6年P.14-P.15)
教育出版社	・鉛筆の持ち方や送筆や終筆の筆の動きが擬態語や擬音語で示してある。(1年P.7,3年P.14) ・良い姿勢を学ぶための合言葉が示されている。(1年P.4-P.5) ・見開き2頁に準備の仕方が書いてあり、墨液の入れ方も書いてある。左手で書く場合もある。初めて書く時の5つの過程を写真で示してあり、後片付けの仕方も掲載されている。(3年P.6-P.12) ・QRコードで動画や資料を見ることができる。真上から撮影した動画で字形や筆使いが確認できる。ナレーションはめあてのみである。	・第2から6学年で「つかむ」「考える」「たしかめる」「ふりかえり」という学習の進め方が示されている(2年P.8-P.9)。 ・單元ごとに自己評価の観点を示し、評価欄を設けている。(5年P.10) ・巻末に水書用紙が添付されている。(1年,2年)ウォーミングアップ線が印刷されている。(1年) ・整っている例と整っていない例を比べさせて自分文字に生かす活動を仕組んでいる。(2年P.21)	・「知りたい文字の世界」として文字や文字文化、書写に関する事柄について写真を使い紹介している。(6年P.18) ・「レッツ・トライ」において国語科や他教科などの学習や日常生活との関連を示している。(6年P.11) ・3年生以上で硬筆の教材に短歌、俳句、古典などを取り上げ、日本の伝統的な文化の内容を取り上げている。(3年P.39)	・第3学年以上で2色の淡墨を使って、穂先の通り道や、筆使いなどが分かりやすく示している。 ・「文字の世界」には児童が興味を突くことができる文字に関するトピックが写真などを多用して分かりやすく取り扱われている。(5年P.11)	・「レッツ・トライ」を設定し、書写で学習したことが各教科等の学習のどの場面で生かすことができるか示されている。(1年P.24,4年P.19) ・自分の立てためあてを達成するためにどのような工夫をしたらよいか示されている。(6年P.8) ・書写で使う言葉を例示し、話合いの進め方の参考として示されている。(2年P.19,4年P.17) ・「書いて伝えよう」として、学習したことを生活や教科等の学習の中で生かすことを考えさせている。(5年P.36)

令和6年度使用小学校教科用図書 調査研究 報告書 (調査員)

教科 書写 代表者名 黒川 以壽美

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
光村図書	・始筆・送筆・終筆の筆の動きを猫のキャラクターの動きで示してある。 ・第1・2学年は文字を書く姿勢を学ぶための「しよしたいそう」が紹介されている。(1年P.4-P.5等) ・見開き2頁に準備の仕方が示してある。左手で書く場合も示してある。書く時の姿勢や筆の持ち方、片付け方も掲載されている。(3年P.4-P.9) ・QRコードでお手本や資料を見ることができる。上からと斜めからの映像で筆使いを示した動画はポイントをナレーションで解説している。さらに「ふりかえろう」の動画でポイントを再度確認することができる。 ・1年間で学習したことが確かめられるよう全学年に「学習のまとめ」が設定されている。(4年P.36-P.39等)	・第3学年から、巻頭に学習の進め方として「考えよう」「たしかめよう」「生かそう」の3段階が示されている。(3年P.10-11)さらに単元ごとに学習の進め方の具体が示されている。(3年P.16) ・単元ごとに自己評価の観点が表示され、自己評価欄が設けられている。(3年P.16) ・水書用紙が添付されている。(1年、2年)水書用紙にマス目が4文字分印刷されている。(1年) ・始筆同士が付く場合を比較させ、何画目が出ているのか書き込む活動を仕組み、筆順と字形の関係に気付かせる活動を仕組んでいる。(5年P.16) ・全学年を通して、教科書に直接書き込むことができる。練習量が多い。	・「ことば」コーナーを設け、日常の言葉や物語、ことわざ、俳句、詩などを書いて味わうことができるようにしている。(5年P.18-P.19) ・第2学年以上の全学年に、整った文字を書くためのポイントを「たいせつ」として示している。(5年P.6) ・書写の学習の中にSDGsの考え方を取り入れ、書写のごみをゼロにする工夫やプラスチックフリーの考え方などを進めるトピックスがいろいろな学年で見られる。(4年P.21-P.24、2年P.40、3年P.65)	・第3学年以上で2色の淡墨を使って、穂先の通り道や、筆使いなどが分かりやすく示されている。 ・動物キャラクターの動きや擬態語、擬音語を示して筆使いを直感的に理解できるように工夫している。(3年P.16) ・ユニバーサルデザインを取り入れ、より多くの人に見分けやすい配色と表示で文字が書かれており、色覚の多様性に対応している。 ・ユニバーサルデザインを取り入れ、情報を精選し、大切なことが一目でわかるようにすっきりとしたレイアウトとなっている。	・国語科や他教科等との関連教材「書写広げたい」を位置付け、言語活動の充実を図っている。(4年P.20) ・「SDGsブック」を添付し、書写とリサイクル等のつながりの視点を紹介している。(4年P.22) ・「たいせつ」として、学んだことをまとめ、日常生活の中での活用を促している。(5年P.25) ・「書写ブック」を添付し、1年から6年までに学んだことをまとめ、日常生活につなげていけるように工夫している。(6年P.21-P.28) ・「もっと知りたい」として書写に関連することを紹介している。(3年P.52)

令和6年度使用小学校教科用図書 調査研究 報告書 (調査員)

教科 社会科

代表者名 柏木 俊明

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を実践に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
東京書籍	・見開きの左側に「つかむ」「調べる」「まとめる」等の学習過程とともに、「どのような～でしょうか。」「～しましょう。」等と記載している。 ・単元の最初のページの横部に年表が載せられており、どの時代の学習をしているのかが一目で分かるようになっている。(第6学年歴史編P.57等) ・見開きごとに1時間ごとの学習問題を端的にタイトルにして示すとともに、児童が疑問等を基に単元の学習問題を作っている。 ・教科書の下部に本時の学習のポイントとなる活動などが「まなびのポイント」として示されている。 ・重要な語句は、「ことば」として教科書の端に示し、語句の意味を説明してある。 ・第4学年の都道府県の学習では、形や特産品に着目させ実際に教科書に記入できるようにしている。(第4学年P.11～P.13) ・「学び方コーナー」があり、具体的な学習の技能や方法を示してある。	・大単元の導入において、見開きのページ構成により、写真で地球の様子や学習活動の具体を提示するとともに、キャラクターの話し言葉で、興味・関心を高めている。(第5学年P.6～P.7) ・単元の最初「つかむ」のページに、動画が準備されており、見通しをもって学習に取り組むことができるように工夫されている。 ・単元によっては、単元末に、学習したことを次の学習や生活に「いかす」、学習したことを基に、他の学習に「ひろげる」というページを設けている。	・琉球時代の文化(第5学年P.54)やアイヌ時代の文化(第5学年P.62)を、関連単元で押さえている。 ・「上・下」巻での構成をとっているため、分量の多さを感じさせず、持ち運びが容易である。(第5学年 第6学年) ・児童にとって身近な広島県にかかわる内容を、第6学年に2項目設定している。(第6学年歴史編P.100～P.101瀬の浦、政治・国際編P.22～P.23ヒロシマなど)(第5学年下巻食料品をつくる工業(P.28～P.29)) ・SDGsや防災、環境、国際理解などについて取り上げているページがあり、今日的課題についての理解を深めることができる。 ・日本の世界文化遺産がまとめてあるページがあり、関連するページが併せて表記されている。(第6学年歴史編P.158～P.159) ・「教科関連マーク」により、他教科との関わりを示している。	・二次元コードにより、Web上に掲載されている導入の動画やワークシート、学び方の解説動画、クイズなどを見る事ができる。 ・「…の様子」といった、絵入りの資料が豊富で、児童がイメージを持ちやすい。(例：第5学年「昔の田植えの様子」など) ・教科書の折り込みページを利用して、資料をより大きく提示し、特色をつかみやすくする等、資料提示を工夫している。(第3学年は1点、第4学年は2点、第5学年は3点、第6学年は3点) ・「学び方コーナー」を「見る・聞く・ふれる」「読み取る」「表す・つたえる」の観点に分け、場面に応じた学習方法を示している。 ・キャラクターを用いて、社会的な見方・考え方を働かせる4つの視点・方法を示している。また、疑問の投げかけ、気付き、分かったことなどの吹き出しがある。 ・「教科書のフォント」が読みやすい。重要語句との差がはっきりとしている。	・単元末の「まとめる」の場面や、単元後の「いかす」の場面において、「説明しよう」「話し合おう」「発表しよう」などと提示し、学習した内容を活用し、社会的事象について説明や話し合い活動を設けている。 ・「まとめる」の過程では、まとめる際に使用できるワークシートが準備されている。(QRコード)

日本文教出版	・社会科の学習の進め方として[問題発見→追究→解決→さらに新たな疑問→追究→生かす]という流れが掲載されている。また、見開きの左側に「どのような～だろう。」「～は何だろう。」等と記載している。 ・見開きごとに1時間ごとの学習問題を端的にタイトルにして示すとともに、児童が疑問等を基に単元の学習問題を作っている。 ・第4学年の都道府県の学習では、教科書に書き込むことができ、多くの写真を活用して各都道府県の特徴が掲載されている。 ・「見方・考え方」に着目できるよう、資料の横に具体的な活動方法が示されている。 ・重要な語句は、「キーワード」として教科書の端に示し、語句の意味を説明してある。 ・単元の最初のページの横部に年表が載せられており、どの時代の学習をしているのかが一目でわかるようにしている。 ・「学び方・調べ方コーナー」があり、見学や観察などの仕方が説明されている。	・大単元の導入において、見開きのページ構成により、写真で地球の様子や学習活動の具体を提示するとともに、キャラクターの話し言葉で、興味・関心を高めている。(第5学年P.8-P.9) ・コラムが豊富にあり、児童の興味関心に応じて活用できるようになっている。 ・単元によっては、単元末に、児童が調べたいことや気になったことを取り上げる「未来へつなげる」というページを設けている。	・児童にとって身近な広島県や東広島市にかかわる内容を、第6学年で1単元掲載されている。(第5学年P.192-P.193, 第6学年P.46-P.51) ・SDGsを自分事として考えることができるよう、第3学年では4箇所、第4学年では5箇所、第5学年では5箇所、第6学年では7箇所SDGsに関わるページがある。また、教科書巻末にはSDGsの目標シールがあり自由に使用できるようになっている。 ・選択単元では、どちらも同じ分量で学習内容が記載されている。 ・SDGsや防災、環境、国際理解などについて取り上げているページがあり、今日的課題についての理解を深めることができる。	・二次元コードにより、Web上に掲載されている写真や動画やワークシート、関連しているウェブサイトへのリンクなどを見る事ができる。 ・教科書の折込みページを利用して、資料をより大きく提示し、特色をつかみやすくする等、資料提示を工夫している。(第3学年は4点、第4学年は1点、第5学年は0点、第6学年は5点) ・「くらしごよみ」や「・・・の様子」といった、絵入りの資料が豊富に使用されている。(例:第5学年「沖縄のくらしごよみ」「輪中ができるまでの様子」など) ・本文が三つの役割に分かれており、見開きでどのように学習を進めていくとよいかがわかるようにしている。 ・資料的な内容となっている文章の部分には、薄く色付けされている。 ・「学びでのびき」を「集める」「読み取る」「表す」の観点に分け、場面に応じた学習方法を表している。	・単元末や単元後において、学習したことをまとめたノートの例や児童が話し合っている様子をイラストで示し、学習した内容を活用し、社会的事象についての説明や話し合いの活動を設けている。 ・単元末に、単元を通しての学習問題について話し合うページがあり、教科書のまとめ方に合わせたワークシートが準備されている。(QRコード)まとめる方法も本文脇に「学び方・調べ方コーナー」として説明されている。
教育出版	・重要な語句は、「キーワード」として教科書の端に示し、語句の意味を説明してある。 ・「つかむ」「調べる」「まとめる」等の学習過程とともに「次につなげよう」のコーナーを設け、「～はどうか。」「～しよう。」等のように、今後の学習につながるように記載している。 ・見開きごとに1時間ごとの学習問題を端的にタイトルにして示すとともに、児童が疑問等を基に単元の学習問題を作っている。 ・「学びの手引き」として、資料の読み取り方や学習問題の立て方などが説明されている。 ・第4学年の都道府県の学習では、教科書に書き込むことができるとともに、多くの写真を活用して各都道府県の特徴が掲載されている。 ・単元の最初のページの横部に年表が載せられており、どの時代の学習をしているのかが一目で分かるようになっている。	・「もっと知りたい」のページがあり、児童の興味関心に応じて活用できる読み物資料が掲載されている。(第6学年15箇所) ・大単元の導入において、見開きのページ構成により、写真で地球の様子や学習活動の具体を提示するとともに、キャラクターの話し言葉で、興味・関心を高めている。(第5学年P.8-P.9)	・琉球時代の文化(第5学年P.33)やアイヌ時代の文化(第5学年P.47)について記載されている。 ・児童にとって身近な広島県の写真を、第3学年で1か所、第5学年5か所、第6学年が4か所掲載されている。	・白黒写真がカラー化されて掲載されている。(第6学年) ・教科書の折込みページを利用して、資料をより大きく提示し、特色をつかみやすくする等、資料提示を工夫している。(第3学年は1点、第4学年は3点、第5学年は2点、第6学年は3点) ・二次元コードにより、Web上に掲載されている写真や動画やワークシート、関連しているウェブサイトへのリンクなどを見る事ができる。 ・「学び方・調べ方コーナー」を「見る・調べる」「読み取る」「表現する」の観点に分け、場面に応じた学習方法を示している。 ・想像図が16か所活用されており、児童が当時の様子をつかみやすくなるよう工夫されている。(第6学年)	・単元末には、新聞作りやプレゼンテーションを活用した言語活動の例を挙げている。「学びでのびき」には「立場をかえて考える」や「順位付けをする」といった、主体的で対話的に学べる方法が書かれている。 ・単元末の「まとめる」の場面や、単元後の「つなげる」の場面において、「説明しよう」「話し合おう」「発表しよう」などと提示し、学習した内容を活用し、社会的事象についての説明や話し合い活動を設けている。

令和6年度使用小学校教科用図書 調査研究 報告書 (調査員)

教科 社会科 (地図)

代表者名 柏木 俊明

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
東京書籍	・第3学年が使用しやすいよう、日本全国を3ページにわたり大きく表示し、都道府県の特徴を明示している。(P.4-P.6) ・地図の見方について、方位磁針と地図のつながりなど明確に示すなど、地図の約束や意味について明記している。(P.7-P.14) ・日本の周りの様子が分かるよう記載され、特に海の深さなど海底の様子が分かる表記がされている。 ・各地図上の1cmが実際にはどのくらいの距離が示している。(P.19) ・現在の東京の様子について詳しく記載されている。(P.45-P.47) ・地球儀の特徴について明記している。(P.53-P.54) ・海外の国の緯度と日本の緯度との関係が理解できるよう、同じ緯度や南半球での日本の反対の緯度を明記し、位置関係を理解できるようにしている。(P.57-P.66)	・主要なページに、地図に関するクイズを記載している。(P.3) ・QRコードを各所に用い、地図で示す場所の写真などを掲載している。 ・世界で使用されている地図記号を掲載している。(P.10)	・地図の中に、外国語活動に通じる多言語の表記がされている。(P.1-P.3) ・北海道のアイヌ語に由来する地名を明記し、アイヌの文化について明記している。(P.52) ・日本の伝統文化を記載するページを設け、イラストや写真で構成している。(P.81-P.82) ・日本の自然災害について、理科の学習内容と重ね合わせて学べるようにしている。(P.97-P.99) ・世界との歴史的なかわり方を示す地図を掲載し、日本の歴史の学習と関連付けている。(P.77-P.80)	・児童が興味のもてる外国語につながる表記や各国の衣装などが親しみやすく表記されている。 ・世界や日本の主な山の写真を掲載し、理解を促している。 ・世界地図と世界の国旗を地域ごとに配列している。(P.101-P.102)	・自分たちの町を地図に表してみようとする表現活動を促す記載がされている。 ・ハザードマップの作り方を簡単に明示し、起こりやすい災害や避難場所などを確認させようとしている。(P.99)
帝国書院	・第3学年が使用しやすいよう、日本全国を3ページにわたり大きく表示し、都道府県の特徴を明示している。(P.4-P.6) ・地図上の1cmが実際にはどのくらいの距離が示している。 ・地図の見方について、方位磁針と地図のつながりなど明確に示すなど、地図の約束や意味について明記している。(P.7-P.16) ・新しい地図記号を明記し、地図記号の意味を示している。 ・地球儀の特徴について明記している。(P.81-P.82) ・海外の国の緯度と日本の緯度との関係が理解できるよう、同じ緯度での日本を明記している。(P.87-P.94)	・QRコードを各所に用い、地図で示す場所の写真などを掲載している。 ・「地図マスターへの道」と題し、地図に示されている特徴的なところをクイズとして提示している。(P.45) ・自動車工業の盛んな愛知県として、自動車の関連工場から組立工場、出荷までの流れを矢印で示している。(P.61) ・海外から輸入される原料を運ぶ船の航路を示し、海運や海外とのつながりについて示している。(P.83-P.86)	・地図の中に、外国語活動に通じる英語の表記が使用されている。 ・広島県や東広島市の地図が拡大されて掲載されている。(P.43-P.44) ・江戸時代における江戸と各地を結ぶ街道を示し、文化や運輸の様子を具体的に表記している。 ・北海道のアイヌ語に由来する地名を明記し、アイヌの文化が理解できるよう明記している。(P.78) ・日本の自然災害について、理科の学習内容と重ね合わせて学べるようにしている。(P.99-P.102)	・地図に使用されている国の色や国境線が分かりやすく表記されている。 ・地図の約束では、第3学年が使用するため、広いスペースをとって掲載している。 ・地図の高低差と土地利用を重ね合わせ、地図の表記がされている。(例P.34-P.36) ・世界地図と世界の国旗を地域ごとに配列している。(P.130-P.132) ・都道府県の地名と位置の理解が進むよう、名前や形に関連付けている。(P.128)	・地図の見方を活用して、地図を使って目的地を説明できるような場面を設定している。(P.16) ・防災マップ作りの作り方を明示し、一連の言語活動が行えるようにしている。(P.102)

令和6年度使用小学校教科用図書 調査研究 報告書 (調査員)

教科 算数科 代表者名 土肥 美由紀

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習等を取り入れる等、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表等の資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
東書	・入門期における数の大小比較では、A4版の薄い教科書を使用し、ブロックを絵の上に置いて比較できるようにしている。絵の上にブロックを置いた後、表の中にブロックを移動させ、数の大小を判断させるようにしている。(1年1P.4-P.5)	・単元のはじめに、学習動機を創出する動画「オープニングムービー」が適宜設定されており、日常生活の中から課題を発見し、児童が主体的に学びに取り組むことができるようになっていく。例えば、第4学年「およその数」では、家で宿題に取り組む時間が日によって違う場面を取り上げ、アンケートに学習時間をどのように表せばよいのか考えることを促すムービーになっている。(4年上P.118)(第3学年以上で全20本)	・他教科との関連がある学習場面では、他教科名とリンクマークを付けていく。(3年下P.31)	・どの学年どの単元でも、複数の児童の吹き出しの発言を手掛かりにして、問題解決の見通しがもてるようになっていく。吹き出しの内容は、解決方法の全てを教えるのではなく、発想の源に意識を向けることにとどまっている。例えば、「分数でわる計算を考えよう」では、吹き出しで「わる数の3/4を整数になおせたら…」と記されており、整数になおせばよさそうだという発想の源に意識を向けさせている。(6年P.53)	・巻頭「学びのとびら」では、問題のつかみ方、自分の考えの表現方法、友だちの考えを説明する活動、振り返り、まとめ等、協働的な学び方の例が示されている。
	・「いくつといくつ(6以上)」では、数の分解を2パターン(隠したブロックの数を考える、カード2枚で数を作る)で構成している。数の分解の練習問題がある。(1年1P.18-P.27)	・単元末に「次に考えてみたいことはどんなことかな？」として、単元で学習したことを発展的に考えた発言が記載されている。(4年上P.130)	・算数の学びを日常生活の場面で活用するページとして「いかしてみよう」を全学年関連単元末に適宜(2-6年4箇所)設定し、算数の身近さや有用性を感じる工夫がある。(3年下P.11)	・日常の場面や、算数の道具等、実物の写真が用いられている。また、見開きページを有効活用し、「垂直な直線の引き方」の手順を、左から右へと確認できるようになっている。点Aを通る垂直な直線の完成図がきちんと示されており、点Aも見やすい。(4年下P.16-P.17)	・巻頭「学びのとびら」での授業展開でのノートの作り方が示されている。
	・台形の面積の求め方を考え、公式をつくる学習では、既習の考え方を示した後、方眼に自分の考えを書き込むようにしている。面積を求める方法を2例紹介しており、平行四辺形の時に使った方法との関連を問うている。2例を基にし、図形のどこの長さが使われたのかを示し、公式にまとめている。練習問題は、4問である。(高さの示されたもの2問、高さを判断するもの1問、上底、下底、高さを自己で判断するもの1問)(5年下P.55-P.57)	・「おもしろ問題にチャレンジ」として、概数の考えを「折れ線グラフ」の単元と関連付けた問題が記載されている。(4年上P.148)	・全国学力・学習状況調査や標準学力調査の結果を分析し、つまずきやすい内容について、紙面上やデジタルコンテンツ上での(繰返し練習の場を、時期を変えて設定する展開の工夫を行っている。(3年下P.10)	・もくじの左側には、「前の学習」とのつながりが、右側には「後の学習」とのつながりが分かるように、学年と単元名が明記されている。	・抽出単元「今日の深い学び」では、「学びのとびら」で示された協働的な学びを取り入れた授業の流れとともに、間違えた考えの直し方、いつでも使える考え方が問われている。(6年P.59-P.61)
	・第4学年「小数のかけ算とわり算」の単元末には、「学習のしあげ」で適用問題を2ページ、「つないでいこう算数の目」では、単元で身に付けた見方・考え方の振り返り1ページがある。適用問題は、計算問題36問、文章問題4問、説明をする問題1問。(4年下P.95-P.97)	・単元の途中にも、「それなら」として、「和」だけでなく、「積や商の見積もりは…」と発展的に考えることを促す発言が記載されている。(4年上P.127)	・単元導入から評価までの学習過程を考慮した動画を含むデジタルコンテンツが掲載。(合計で約1450コンテンツ)	・QRコードに説明コメントはついていない。	・巻頭「学びのとびら」の中に、毎日の学習で使うマークと説明が示されている。(2年P.2-P.3)

	・第4学年「小数のかけ算とわり算」の巻末の練習問題は、3ページある。計算問題61問。□に数をあてはめる問題12問。文章問題11問。(4年下P.128-P.131)	・第4学年以上で特設的に「プログラミングを体験しよう!」の掲載やデジタルコンテンツ上でプログラミング体験ができる。(4年上P.135,5年上P.124,5年下P.130,6年P.232) ・第4学年の「プログラミングを体験しよう」では、四捨五入するときの手順を、□にあてはまることばや数字を書いて整理し、プログラムをつくる内容になっている。(4年上P.135)	・デジタルコンテンツには、「動画」「操作」「練習問題」「評価」「つまずき支援」「グラフ作成」等が種類としてある。各単元の練習問題がQRコードからワンタッチでつながり、自己評価ができるようになっている。補充問題がQRコードからつながり、自己評価もできるようになっている。(3年上P.88) また、巻末の紙面上の補充問題への表示もある。	・「大切な見方・考え方」は虫眼鏡のマークで示されている。どの単元においても、毎時間、単元の中で身に付けさせたい見方・考え方が明記されており、「まとめ」の例も示されている。(2年P.65) ・問題を設定する→計画を立てる→データを集めて整理する→分析する→結論を出す→問題を設定する→(繰り返し)の学習の流れを示した後、単元を5時間で構成している。毎時間、分かったことや分析したことを説明する問いが設けられており、説明をする際に使える見方・考え方が示されている。(6年P.190-P.195)
--	--	--	---	---

大日本

・入門期における数の大小比較では、A4版の薄い教科書を使用し、ブロックを絵の上に置いて比較できるようにしている。絵の上にブロックを置いた後、表の中にブロックを移動させ、数の大小を判断させるようにしている。(1年1P.8-P.9) ・「いくつといくつ(6以上)」では、数の分解を5パターン(おはじきの分け方、さいころの組み合わせ、ドットカードの組み合わせ、数カードの組み合わせ、ブロックの分け方)で構成している。数の分解の練習問題は、ない。(1年1P.35-P.39) ・台形の面積の求め方を考え、公式をつくる学習では、方眼に自分の考えを書き込むようにしている。面積を求める方法を3例紹介してある。1例を基にし、図形のどこの長さが使われたのかを示し、公式にまとめている。練習問題は、3問である。(高さの示されたもの1問、高さを判断するもの2問)(5年下P.230-P.232) ・第4学年「小数のかけ算とわり算」の単元末には、「たしかめ問題」で適用問題を2ページ、そのうち1ページは、単元で身に付けた見方・考え方の振り返り、計算の仕方を説明する問いがある。適用問題は、計算問題16問、文章問題3問、説明をする問題1問。(4年P.230-P.231) ・第4学年「小数のかけ算とわり算」の巻末の練習問題は、15ページある。計算問題52問、文章問題1問(小問2問)。(4年下P.284-P.285)	・単元のはじめに、学習の見通しをもたせる問題を設定し、日常生活の中から課題を発見し児童が主体的に学びに取り組むことができるようになっている。例えば、「おおよその数」では、遊園地の絵が描かれており、その中には、「パレードまであとちょうど5分」「待ち時間5分」等の概数とそうではない数が13こ示されている。スライドが準備されており、児童の吹き出しを音声で読み上げるようになっている。(4年上P.120) ・「学んだことを生かそう」には、日常生活に算数が生かせる場面の例が示されており、習熟度の高い児童の「もっとやりたい」という気持ちに応えられるようになっている。概数の考えを「折れ線グラフ」の単元と関連付けた問題が記載されている。(4年P.134) ・全学年で、当該学年の学習内容と関連づけた「プログラミングに挑戦」が発達段階に応じた内容で掲載されプログラミング的思考が学習でき、デジタルコンテンツ上でプログラミング体験ができる。(1年2P.132,2年P.166,3年P.218,4年P.162,5年P.212,6年P.176) ・第4学年の「プログラミングにちょうせん！」では、青玉の数の変わり方を調べるためにプログラムをつくる内容になっている。(4年P.162-P.163)	・他教科との関連がある学習場面では、他教科名とリンクマークを付けている。(5年P.39) ・「学んだことを生かそう」を2年生以上で単元末に記載し、学んだことを応用・発展問題や上位の学年の学習や身近な生活に生かす内容として掲載されている。(6年P.44) ・全国学力・学習状況調査で課題とされている「活用する力」「情報を読み取る力」「根拠を説明する力」について、特設問題「読み取る力をのぼそう」で育成する工夫がある。(4年P.152)(5年P.121) ・アニメーションや動画等のデジタルコンテンツを、全学年で掲載。(合計で約1445コンテンツ) ・デジタルコンテンツには、「動画」「操作」「練習問題」「記録用紙」「ふりかえり」等が種類としてある。補充問題がQRコードからつながり、自己評価もできるようになっている。(3年P.93)また、巻末の紙面上の補充問題への表示もある。	・どの学年、どの単元でも、複数の児童の吹き出しの発言を手掛かりにして、問題解決の見通しをもてるようになっている。例えば、「分数でわる計算を考えよう」では、吹き出しで「わる数の3/4を整数になおして…」と記されており、整数になおす式が□を用いて記されている。(6年P.117) ・見開きページを有効活用し、「垂直な直線の引き方」の手順を、写真で左から右へと確認できるようになっている。垂直な直線の完成図は記されているが、条件のある垂直な直線の書き方ではない。(4年P.96-P.97) ・もくじの左側には、「前の学習」とのつながりが、右側には「後の学習」とのつながりが分かるように、学年と単元名が明記されている。 ・各ページに掲載されているQRコードの説明コメントがある。	・巻頭「算数の学び方」では、問題のつかみ方、自分で考える方法、学び合いの観点、まとめ、振り返り等協働的な学びの例が示されている。ノートの書き方の例、話し方聞き方の観点も示されている。 ・抽出単元では、「算数の学び方」で示された協働的な学びを取り入れた授業の流れとともに、本時で習得した考え方を使って「さらに考えよう」という問いを設け、説明する活動を取り入れている。(6年P.6-P.7,P.32-P.34) ・巻頭「つかっていこう算数の大切な考え方」では、考え方の視点と例、身に付けた考え方を書き込むページがある。(2年P.10-P.15) ・毎時間、キャラクターの吹き出しの中に、見方・考え方が示されている。(2年P.30-P.33) ・「データの活用」では、たしかめ問題の前に、データを集めて問題を解決するときの手順(PPADCサイクル)が「1調べることを決めよう2計画を立てよう3データを集めよう4分析しよう5わかったことを発表しよう1に生かして繰り返す」という具体で示されている。1～5の活動では、注意する点や考える視点、まとめ方の例が示されている。単元の中には話し合いをしたり説明をしたりする時間が設けられている。(6年P.84-P.85)
---	--	--	---	--

学図

・入門期における数の大小比較では、おはじきを絵の上に置いて比較できるようにしている。B53版で3ページ使用し、絵の上にプロおはじきを置いた後、表の中にプロおはじき移動させ、数の大小を判断させるようにしている。(1年上P.2,P.4,P.5)	・単元のはじめに、「はてなを発見」として、学習の見通しをもたせる問題を設定し、日常生活の中から課題を発見し児童が主体的に学びに取り組むことができるようになっている。例えば、「およその数」では、「およそ18000発！」と書かれている花火大会のポスターに対しての児童の発言がいくつか示されており、およその数について着目を促すようになっている。教科書と同じ紙面のスライドが準備されているが、動画ではない。(4年下P.2)	・「ふりかえろう つなげよう」の内容が全学年の関連単元末に設定され(全15箇所)、発展的な考え方を促す工夫がなされている。(4年上P.86-P.87)	・どの学年、どの単元でも、複数の児童の吹き出しの発言を手掛かりにして、問題解決の見通しをもてるようになっている。例えば、「分数どおしのわり算の意味や計算のしかたを考えよう」では、吹き出しで「$3/4$dLと1dLの関係を考えると…」と記されているものの、整数になおせば考えられそうだというところまでは記載されていない。(6年P.75)	・巻頭「算数の学び方」では、学びのはじめ、今日の学び、学びのまとめとふりかえり、次の学びにつながる「はてな」という協働的な学びの例が示されている。ノートの書き方の例も示されている。ほとんどの単元で「算数の学び方」を基本とした授業展開で構成され、考え方の例を示した後、考え方を説明する活動が設けられている。(6年P.2-P.7,P.44-P.49)
・「いくつといくつ(6以上)」では、数の分解を4パターン(ボールの分け方、おはじきの分け方、数カードの組み合わせ、ブロックの分け方)で構成している。数の分解の練習問題は、ない。(1年上P.26-P.30)	・「まなびをいかそう」には、日常生活に算数が生かせる場面の例が示されている。概数の考えを買い物場面で活用する問題が記載されている。(4年下P.16)	・2年生以上で、関連単元の後に「なるほど 算数」を掲載し、学んだことを深める工夫がされている。(4年上P.16)	・「垂直な直線の引き方」の手順を、左から右へと写真で確認できるようにしている。点Aを通る垂直な直線の完成図は示されておらず、点Aも見にくい。(4年上P.117)	・巻頭「1年生でみつけた見方・考え方」では、前学年で身に付けた算数の見方・考え方が分類・整理されている。(2年上P.10-P.11)
・台形の面積の求め方を考え、公式をつくる学習では、既習の考え方を示した後、面積を求める方法を4例紹介しており、平行四辺形の時に使った方法と関連づけてある。2例を基にし、図形のどこの長さが使われたのかを示し、公式にまとめている。練習問題は、3問である。(高さを判断するもの1問、上底、下底、高さを自己で判断するもの2問)(5年下P.60-P.61)	・全学年で、学年末の総復習の中に発達段階に応じた内容が「プログラミングのブ」として掲載され、プログラミング的思考が学習できる。(1年下P.80,2年下P.114,3年下P.144,4年下P.154,5年下P.150,6年P.226)筋道立てて考える思考を焦点化して扱っているため、紙面上でもデジタルコンテンツ上でもプログラミングはない。	・他教科との関連がある学習場面を表示するものはない。	・もくじの左側には、「前の学習」とのつながりが、右側には「後の学習」とのつながりが分かるように、学年と単元名が明記されている。	・「算数でみつけたい！ 考え方モンスター」では、考え方を9個に整理し、その考え方を使うことの意義が示されている。(2年上P.9)
・第4学年「小数のかけ算とわり算」の単元末には、「できるようになったこと」「まなびをいかそう」で適用問題を2ページ、「ふりかえろう」では、単元で身に付けた見方・考え方の振り返り、話し合う場面を設定した1ページがある。適用問題は、□に数をあてはめる問題3問。計算問題28問。文章問題6問。(4年下P.95-P.97)	・発達段階に応じて手を使った試行錯誤によるプログラミング的思考を育むように、第1学年と第3学年の課題には切り取って使える付録も付けられている。(1年下P.101,3年下P.165)	・算数と社会の関わりを深める内容が、SDGsの視点に添い「算数をつかって」と題し、特設的に全学年で計18箇所掲載されており、算数の身近さや有用性を感じる工夫がある。(2年下P.58)	・QRコードに説明コメントがついていない。	・毎時間、「考え方モンスター」によって、その時間に必要な考え方が吹き出しで明記されている。(2年上P.32)
・第4学年「小数のかけ算とわり算」の巻末の練習問題は、2ページある。計算問題52問。文章問題8問。(4年下P.164-P.165)	・第4学年の「プログラミングのブ」では8つの玉の中から重さの違う一つを探す内容になっている。思考の流れがチャート図に整理されている。(4年P.154-P.155)	・つまづきやすい「倍」の概念について、通常の単元とは別の特別単元として位置づけ、小数、分数のかけ算やわり算のあとに、重点的に学習できるように構成の工夫がある。(5年上P.128-P.129)(6年P.126-P.127)	・「中学校へのかけ橋」と題した別冊本を準備し、中学校の学習へのさらかな学びの移行を手助けする工夫がある。(6年)	・「データの活用」では、「問題を見つけ→計画を立てる→データを集める→分析する→結論を出す→新しい問題を見つける」という学習の流れで単元を構成している。PPDACサイクルの説明がある。それぞれの時間に必要な使える見方・考え方が示されている。自分たちの身の周りのことを実際に調べる時間が設定してある。(6年P.212-P.215)

		・単元導入から評価までの学習過程を考慮した動画を含むデジタルコンテンツを掲載。(合計で約610コンテンツ) ・デジタルコンテンツには、「動画」「操作」「練習問題」「ふりかえり」「関連資料」等が種類としてある。各単元の練習問題では、補充問題が設定されており、ノート記述用と入力用が選べるようになっている。QRコードからワンタッチで関連単元の問題が開く。補充問題8問が、「学級全体で1問ずつ解いていく表示」と「連続表示」の選択設定できる。また、練習時間設定が3段階でできるようになっている。(3年上P.125)	
--	--	--	--

教出

・入門期における数の大小比較では、おはじきを絵の上に置いて比較できるようにしている。B5版で1ページ使用し、絵の上にプロおはじきを置いた後、表の中にプロおはじき移動させ、数の大小を判断させるようにしている。(1年上P.7)	・単元のはじめに、「どんな学習がはじまるかな」として、学習の見通しをもたせる問題が設定されている。日常生活の中から課題を発見し、児童が主体的に学びに取り組むことができるようになっている。例えば、「がい数」では、恐竜について書かれた図鑑に対しての児童の発言がいくつか示されており、およその数について着目を促すようになっている。スライドや動画はない。(4年上P.92)	・2-6年で関連単元で「学んだことをつかおう」を設定し、身の回りに算数を活用する場面を積極的に設けている。(5年P.187-P.189)	・どの学年、どの単元でも、複数の児童の吹き出しの発言を手掛かりにして、問題解決の見通しをもてるようになっている。例えば、「分数のわり算」では、吹き出しで長さが4倍になれば重さも4倍になるから…」と記されており、考え方や図、式が記載されている。(6年P.72)	・巻頭「みんなで算数をはじめよう！」では、問題をつかむ、自分の考えをもつ、話し合って深める、まとめと振り返り、広げて考えるという協働的な学びの例が示されている。(6年P.2-P.6)
・「いくつといくつ(6以上)」では、数の分解を5パターン(おはじきの分け方、さいころの組み合わせ、ドットカードの組み合わせ、数カードの組み合わせ、ブロックの分け方)で構成している。数の分解の練習問題は、ない。(1年1P.37-P.42)	・「学んだことを使おう」では、日常生活に算数が生かせる場面の例が示されており、概数の考えをぼうグラフに表す問題が記載されている。身の回りにある概数を見付けることを促す「がい数さがし」のコーナーもある。(4年上P.104-P.105)	・2-6年の年間まとめの前に「算数をつかって考えよう」を設定。内容的には、身近な生活の中にあるデータ活用に焦点化している。(5年P.256-P.259)	・「垂直な直線の引き方」の手順を、2枚の写真で示し、2枚の三角定規の使い方を考えさせるようになっている。(4年上P.117)くわしいかき方は、「学びの手引き」として巻末に「平行な直線のかき方」と並べて掲載されている。(4年上P.168)点Aを通る垂直な直線をかく手順が写真で上から下へと示されているが、点Aも明記されておらず、完成図もない。	・抽出単元「学びを深めて」では、巻頭で示された例を使った授業展開が示されており、ノートの書き方の例も示されている。(6年P.124-P.127)
・台形の面積の求め方を考え、公式をつくる学習では面積を求める方法を3例紹介してある。1例を基にし、図形のどこの長さが使われたのかを示し、公式にまとめている。練習問題は、2問である。(高さの示されたもの1問、高さを判断するもの1問)(5年下P.219-P.221)	・第1・2・4・5学年に「プログラミングにちようせん」として掲載。また同ページに、デジタルでのプログラミング教材がある。内容的には、プログラミングに焦点化したもの。(1年P.187,2年上P.145,4年下P.165,5年P.234-P.235)	・他教科との関連がある学習場面を表示するものはない。	・もくじの左側には、前の学習とのつながりが分かるように、学年と単元名が明記されている。	・巻頭「算数でつかいたい見方・考え方」では、前学年で使ってきた算数の見方やいつも大切にしたい算数の考え方が整理されている。(2年上P.4-P.5)
・第4学年「小数のかけ算とわり算」の単元末には、「ふりかえろう」「たしかめよう」「ふく習」で適用問題が4ページある。「ふりかえろう」では、計算の方法を確かめて、計算する問題が2問、「たしかめよう」では、計算問題18問、文章問題2問、「復習」では、小数のたし算・ひき算等を含み、計算問題を28問、文章問題が4問ある。(4年下P.96-P.99)	・デジタルコンテンツ上でプログラミング体験ができる。(5年P.234)	・全国学力・学習状況調査の結果からつまずきを分析し、教科書の内容構成に生かしている。(5年P.214「四角形や三角形の面積」必要な情報を選択する問題)	・QRコードに説明コメントがついていない。	・毎時間、「はてな」「だったら」「なるほど」という考え方を使い、算数の考え方が示されている。(2年上P.87-P.89)
・第4学年「小数のかけ算とわり算」の巻末の練習問題は、2ページある。計算問題32問。□に数をあてはめる問題2問。文章問題4問(小問8問)。(4年下P.148-149)	・第4学年の「プログラミングにちようせん」では、車の進み方をカードで指示をしてゴールをめざす内容になっており、実際に車を動かせるようになっている。(4年P.165)	・全学年でデジタルコンテンツが掲載。(合計で800コンテンツ)		・「データの活用」では、たしかめ問題の前に、「テーマを見つける→計画を立てる→データを集めて整理する→分析する→結論を出す→問題を設定する→(繰り返し)」の説明とポイントが示されている。(6年P.100)
		・デジタルコンテンツには、「毎時間のまとめ・ふりかえり用のアニメーション」「動画」「操作」「ワークシート」等が種類としてある。単元ごとの練習問題は、紙面上での練習問題に焦点化している。		・単元のそれぞれの時間に必要な使える考え方が示され、自分の考えを伝える場面が設定されている。(6年P.88-P.105)

			・QRコードによる補充問題はなく、巻末の補充問題につながる表示がある。(3年上P.147)		
--	--	--	---	--	--

啓林館	・入門期における数の大小比較では、A4版の薄い教科書を使用し、ブロックを絵の上に置いて比較できるようにしている。絵の上にブロックを置いた後、表の中にブロックを移動させ、数の大小を判断させるようにしている。(1年すたあと ぶっくP.8-P.9)	・単元のはじめに、学習の見通しをもたせる問題が設定されている。日常生活の中から課題を発見し、児童が主体的に学びに取り組むことができるようになっている。例えば、「がい数とその計算」では、サッカーの試合の入場者数に対しての「およその数」で表した児童の発言が示されており、およその数について着目を促すようになっている。スライドや動画はない。(4年下P.18)	・他教科との関連については、特に強調されることはしていない。	・どの学年、どの単元でも、複数の児童の吹き出しの発言を手掛かりにして、問題解決の見通しをもてるようになっている。例えば、「分数÷分数」では、吹き出しで「小数のわり算のときと同じように、わり算の性質を使えないかな。」と記されている。(6年P.58)	・巻頭「算数のとびら」では、問題の意味をつかむ、見通しをもって考える、みんなで話し合う、振り返り、たしかめるといった協働的な学びの例が示されている。(6年P.4-P.9)
	・「いくつといくつ(6以上)」では、数の分解を3パターン(ブロックの分け方、おはじきの分け方、おはじきゲームの結果)数カードの組み合わせ、ブロックの分け方)で構成している。数の分解の練習問題がある。数の分解のゲーム例が4例掲載されている。(1年1P.28-P.38)	・単元末の「学びを生かそう やってみよう」には、さらに発展的に考えたり、活用・探究に取り組んだりする児童の姿が取り上げられている。(4年下P.51)	・学びを生かすために「さがしてみよう」という記号をつけて調べ学習を促す内容を設けている。(5年 P.202)	・「垂直な線の引き方」と「平行な直線の引き方」の手順を、左右に並べて掲載されている。点Aを通る垂直な直線のかき方の手順が上から下へと写真で記されているが、完成図はない。点Aは見やすい。(4年上P.69)	・ほとんどの単元で「算数のとびら」を基本とした授業展開で構成され、考え方の例を示した後、なぜそのように考えたのかという理由とまとめが示されている。(6年P.56-P.57)
	・台形の面積の求め方を考え、公式をつくる学習では、方眼に自分の考えを書き込めるようにしている。面積を求める方法を3例紹介しており、平行四辺形の時に使った方法と関連づけてある。3例を基にし、図形のどこの長さが使われたのかを示し、公式にまとめている。練習問題は、2問である。(高さの示されたもの2問、)(5年P.147-P.149)	・探究活動を促すコンテンツも用意されているところもある。(4年上P.83)(2年上P.98-P.99)	・SDGsの視点を取り上げて学びと生活をつなぐ内容を、学年1つずつ特設的に設けている。(4年下P.106)	・もくじの左側には、「これまでに学んだこと」として、既習とのつながりが分かるように、学年と単元名が明記されている。	・巻頭「算数でつかいたい考えのすずめ方」では、考え方を6つ例を挙げて示している。(6年P.9)
	・第4学年「小数のかけ算とわり算」の単元末には、「学びのまとめ」で適用問題を1ページ、「ふりかえろう」では、単元で身に付けた見方・考え方の振り返り1ページがある。適用問題は、計算問題12問、文章問題2問(小問3問)。(4年下P.50-P.51)	・全学年で系統的に、プログラミング単元「わくわくプログラミング」が一つずつ設定され、低学年でも無理なく楽しんでプログラミングを育む工夫がある。(1年P.94)。	・各学年の学習内容におけるつまづきポイントや誤答を分析し、細やかで丁寧に表記したり時間数を増やしたりして対応している。(4年上P.41)(5年P.38)	・QRコードに説明コメントが付いている。	・毎時間、キャラクターの吹き出しに、その時間に必要な考え方が示されている。また、吹き出しの中の特に大切な言葉には、オレンジ色で色がぬられている。(6年P.58-P.59)
	・第4学年「小数のかけ算とわり算」の巻末の練習問題は、4ページある。計算問題79問。□に数をあてはめる問題4問。文章問題4問、間違いを正す問題6問。(4年下P.121-P.124)	・デジタルコンテンツ上に、Scratchとオリジナルコンテンツの二種類が教材としてある。(5年P.242)	・単元導入から評価までの学習過程を考慮した動画を含むデジタルコンテンツが掲載。(合計で約1614コンテンツ)		・「データの活用」では、たしかめ問題の前に、これまでの学習を振り返り、「問題を設定する→調べ方を計画する→データを集める→データを分析する→結論をまとめる→問題を設定する(繰り返し)」のPPDACサイクルの流れが説明してある。単元では、毎時間、自分が出した結論について理由を説明する活動が設けられている。(6年P.106-P.123)
		・第4学年の「わくわくプログラミング」では、分身の術を使った忍者が何人になるかを求めるプログラムの命令を考える内容になっている。(4年下P.104)	・デジタルコンテンツには、「動画(解説動画を含む)」「操作」「練習問題」「スライド資料」等が種類としてある。		

			・QRコードによる補充問題はなく、巻末のページにつなげるように表示がある。(3年上P.108)		
--	--	--	---	--	--

・入門期における数の大小比較では、B5版の薄い教科書を使用し、おはじきを絵の上に置いて比較できるようにしている。絵の上におはじきを置いた後、表の中にブロックを移動させ、数の大小を判断させるようにしている。どのような場面であるか、絵と文字両方で示されている。(1年1P.12-P.13)	・各単元のはじめに、児童が「やってみたい」「もっと知りたい」と思うような興味や好奇心に働きかける題材が用意されている。例えば、「およその数」では、日本の人口に対しての児童の発言がいくつか示されており、およその数について着目を促すようになっている。スライドや動画はない。(4年上P.78)	・学びを生かすための数学的な活動「使ってみよう」が、関連単元の内容に添って各学年7-8箇所取り上げられている。(5年 P.146)	・どの学年、どの単元でも、複数の児童の吹き出しの発言を手掛かりにして、問題解決の見通しをもてるようになっているが、「分数のわり算」の第1時では、吹き出しで見通しをもたせるようにはなっておらず、二つの計算の仕方が児童の考えとして掲載されている。(6年P.62)	・巻頭の「算数の学習をはじめよう」では、どんな問題かな、考えよう、学び合おう、ふり返ろうという協働的な学びの例が示されている。ノートの例も示されている。(6年P.2-P.7)
・「いくつといくつ(6以上)」では、数の分解を3パターン(おはじきの分け方、さいころの組み合わせ、数カードの組み合わせ)で構成している。数の分解の練習問題は、ない。(1年1P.39-P.43)	・単元末に「ぐっとチャレンジ」として、各単元に対応した応用的・発展的な問題(6枚のカードを並べてつくった数のうち、概数にすると32000になるもので1番大きい数を見いだす問題等)が記載されているが、日常生活に基づいたものというわけではない。(4年上P.152)	・「算数ジャンプ」と題し、他教科との関連内容やSDGsの視点を取り上げて(5-6年)、学びと生活をつなぐ内容を掲載している。(5年P.254-P.255)(6年P.198-P.199)	・見開きページを有効活用し、「垂直な直線の引き方」の手順を、写真で左から右へと確認できるようになっている。垂直な直線の完成図は記されているが、点Aは見にくい。(4年上P.8-P.9)	・抽出単元「自分でみんなで」では、「算数の学習をはじめよう!」で示された例を使った授業展開が示されている。また、わけを説明する問いも設けられている。(6年P.2-P.7, P.159-P.161)
・台形の面積の求め方を考え、公式をつくる学習では、方眼に自分の考えを書き込めるようにしている。面積を求める方法を3例紹介しており、これまでに習った図形の面積の求め方と関連づけてある。3例を基にし、図形のどの長さが使われたのかを示し、公式にまとめている。練習問題は、2問である。(高さの示されたもの1問、高さを選択するもの1問)(5年下P.163-P.166)	・全学年で、プログラミング単元「レッツプログラミング」が系統的に一つずつ設定され、児童の発達段階や関心に添った内容で、楽しんでプログラミング的思考やプログラミングを扱っている。(4年下P.134)	・全国学力・学習状況調査の結果をもとに、各学年において「まちがいやすい問題」と題し、関連内容を取り上げている。(2年下P.77)	・もくじの左側には、「これまでの学習」とのつながりが分かるように、学年と単元名が明記されている。	・巻末の「算数で使いたい見方・考え方」では、算数の見方・考え方の例を10個提示し、例を示している。
・第4学年「小数のかけ算とわり算」の単元末には、「わかっているかな」で単元で身に付けた見方・考え方を振り返り、文章と図を関連させる問題があり、「たしかめよう」で適用問題が1ページがある。適用問題は、計算問題24問、文章問題1問、説明をする問題1問。(4年下P.111-P.112)	・デジタルコンテンツ上でプログラミング体験ができる。(5年P.259)	・つまづきやすい「倍」「割合」の概念について、低学年から丁寧に積み上げていくことを意図し、3年以降に「倍」と「割合」に特化した単元を設けている。(2年下P.15-P.16)(6年P.74-P.78)	・QRコードに説明コメントがついている。	・毎時間、その時間に必要な見方・考え方が示されている。(2年上P.33)
・第4学年「小数のかけ算とわり算」の巻末の練習問題は、「しっかりチェック」が2ページある。計算問題24問。□に数をあてはめる問題3問。文章問題4問(小問5問)。(4年下P.148-P.149)「ぐっとチャレンジ」は1ページ5問。(4年下P.154)	・第4学年の「レッツ プログラミング」では、すごろくのフローチャートを完成させる問題と、ある数を四捨五入して上から2けたの概数にするアルゴリズムを考えるフローチャートを完成させる問題が扱われている。デジタルコンテンツはない。(4年下P.134)	・単元導入から評価までの学習過程を考慮した動画を含むデジタルコンテンツが掲載。(合計で約838コンテンツ)		・「データの活用」では、たしかめ問題の前に、「問題を見つけよう→調べ方を計画しよう→データを集めよう→データを詳しく分析しよう→結論を考えよう→問題を見つけよう(くり返し)」というPPDACサイクルが示されている。その後、活動一つ一つが1ページずつ説明してある。単元の中には、分かったことを話し合う時間が設定されている。(6年P.92-P.105)
		・デジタルコンテンツには、「既習事項のふりかえり」「動画」「操作」「練習問題」「確認」「関連サイトへのリンク」等が種類としてある。		

			・QRコードの読み取りによる練習問題は、スマホ画面が途中で切れており見えにくいですが、タブレットでは全体が見える。その補充問題は8問準備されている。		
--	--	--	---	--	--

令和6年度使用小学校教科用図書 調査研究 報告書 (調査員)

教科 理科 代表者名 山田 隆

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
東京書籍	・問題と結論が正対している。結論以外の説明が「まとめ」の中、又はその直後にある。(第6学年P.156-P.158) ・単元末に「ふりかえろう」「たしかめよう」の問題がある。QRコンテンツ「デジもん」の練習問題もある。(第4学年P.99、第5学年P.136) ・1年間に学んだことを単元ごとにまとめたコーナー「ふりかえろう」がある。巻頭に、前学年の学習内容をまとめたものが記載されている。(第4学年～第6学年) ・実験、観察の方法や記録の方法が単元中と巻末にある。 ・安全にかかわる内容が巻末にまとめてある。単元各ページに危険な行動や注意することを「きけん」のマークと赤字で表示している。 ・ノートの書き方、観察記録の書き方、調査の仕方が巻末にある。単元末の「ふりかえろう」が手書き風に示されており、ノート例にもなっている。(第5学年P.47)	・児童の学習に対する興味・関心、期待感を向上させるような大きな写真と簡単なメッセージが巻頭に示されている。児童に関心や疑問をもたせるために、巻頭に大きな写真と簡単なメッセージが、単元の初めに体験や観察活動「レッツトライ！」がある。(全学年) ・巻頭の「学び方」に問題解決の過程が示されている。単元中では、問題解決の過程を1本のラインでつないで示してある。 ・主にその学年で育てる問題解決の能力を発揮する場面に「のぼそう理科の力」と表示し、話合いの様子を提示している。(第4学年P.128) ・理科の見方・考え方を働かせながら問題解決できるように、問題のそばに理科の見方・考え方を吹き出して具体的に示している。(第6学年P.155) ・自らの考えの変容や成長を実感させるために、単元導入時と単元末に同じ問いが投げかけられている。(第6学年P.10、P.24) ・各単元のページにQRコードを配置し、関連するQRコンテンツを伝えるようにしている。QRコンテンツ数は各学年200以上ある。	・教科書はA4サイズで、第6学年は201ページである。 ・第4学年、第5学年の水や水溶液に関わる単元が同時期にある。第5学年の学習は天気から始まっている。 ・日常生活とのつながり、伝統や文化、キャリア教育などと理科学習との関連を「こんなところにも！」のコーナーで紹介している。(第4学年P.133) ・他教科の学びと関連させて問題を見いだしたり考えたりさせる「思い出そう」というコーナーがある(第6学年P.195) ・自然災害に関わる単元では、自然災害の仕組みやその恐ろしさを取り上げ、防災、減災について掲載している。(第5学年P.86-P.89) ・理科と生活との関連がある身の回りのプログラミング事例を巻末で紹介している。(全学年)また、第6学年で身近な事例を再現するプログラミングを取り入れている。(第6学年P.148)	・広い紙面に写真や図表が大きく掲載されている。また、写真や絵図の数も多い。(第5学年P.76)また、教科書中のイラストや写真にはQRコードで読み取り、操作したり書き込んだりすることができるものもある。 ・1ページに掲載される文章、絵図などの量や配置、行間サイズ、色合いなどは、見えやすい大きさになっている。文字サイズは4段階になっている。 ・問題解決の力を特に発揮する場面に「のぼそう！理科の力」と表示している。(第5学年P.141)「理科の見方・考え方」を発揮する場面に、2種類のパンダのイラストを配置している。(第5学年P.53、P.55) ・問題解決の過程が言葉だけでなく、記号で表記されている。また、重要な理科用語は太字・アンダーラインで明確にしている。単元導入ページや「まとめ」などの主な箇所の文章にフリガナがついている。 ・各単元が見開きページから始まり、見開きに示された内容からつむむ問題が右下に示されるという同じパターンのページ構成である。目次が裏表紙に掲載してある。 ・どの学年も多様な登場人物となっており、多様性に配慮している。	・条件制御し実験計画を分かりやすく明示するとともに、結果の予想をさせている。しかし、考察に予想の振り返りがない。(第5学年) ・予想や考察での話合いの具体が漫画風に描いてある。(第4学年P.23) ・巻末に「発表の仕方」「話合いの仕方」が明記されている。単元の話合いや発表場面に「デジ活」表示があり、QRコードからイラストや写真を使って話合いや発表ができるようになっている。(第5学年P.40)

大日本図書	・問題と結論(分かったこと)が正対しており、結論(分かったこと)とそれ以外の説明を区別して記している。(第6学年P.29) ・基礎的・基本的な知識や技能の定着を図ったり学びを深めたりするための問題「確かめよう、学んだことを生かそう、ふり返ろう」がある。(第6学年P.20～21)「チャレンジ問題」が巻末にある。(第5学年P.192, P.193) ・巻末に該当学年の学習内容を「まとめ」として単元ごとに整理して掲載している。(第5学年P.190) ・観察、実験のこつを「ポイント」の表示とともに説明している。(第4学年P.181) ・安全にかかわる注意喚起を「注意」の目立つ表示とともに赤字の文章で記載している。巻末に注意事項が記載されている。(第5学年P.119, P.180) ・巻末に「理科の学びに役立てよう」としてノート例、器具の扱い、学習内容のまとめなどが掲載されている。(第5学年P.172)	・巻頭に興味深い問題を掲載し、理科の考え方を意識するきっかけとしている。 ・単元の導入として問題を見いだすための体験活動の設定、大きな写真の提示がされている。 ・「理科の学び方」として問題解決の過程を示している。(全学年P.2)各学年各単元の問題解決の全過程を省略しないで掲載している。 ・各学年で主に育成する問題解決の能力を問題解決の過程にそって示し、「理科の学び方」として掲載している。(全学年P.2) また、各単元中では、問題解決の能力が発揮される過程に「◇マーク」を付けて強調している。(第6学年P.14) ・問題発見や考察場面で、科学的な見方を働かせて考えたり話し合ったりできるように、「ここに注目」と表示して着眼点を示している。(第4学年P.170, P.174) ・単元末に学習を振り返る「ふりかえろう」の問題があり、自己の学びや成長を実感できるようにしている。 ・タブレットを使った観察や実験、調べ学習を紹介している。(第3学年P.95, 第4学年P.116)	・教科書はA4サイズで、第6学年は232ページである。写真や絵図などを比較、関連付けて考えたり、予想と結果を比較して考察したりすることができるように配置してある。(第3学年P.155, 第4学年P.166～P.167) ・同じ器具を使う単元、理科室を必ず使用する単元をずらして配列してある。(第6学年「7水溶液の性質」と第5学年「7物の溶け方」は1ヶ月ずらしてある) ・伝統や文化、自然の大切さ、防災などの視点をマークで示しながら、「理科のたまてばこ」として掲載している。(第3学年P.123, 第4学年P.145) また、学んだことを自然現象や日常生活に当てはめて考える「学んだことを生かそう」/「りかのたまてばこ」/「サイエンスワールド」などを掲載している。 ・算数や生活科などの他教科との関連を整理して巻末に掲載している。(第3学年P.192～P.193, 第4学年P.212) また、国際理解、キャリア教育、道德教育などの観点から、理科と関連する内容を掲載している。(第3学年P.148, 第4学年P.29, 第5学年P.166) ・高学年の天気、土地、川の学習に、自然災害と減災、防災が関連付けて掲載されている。 ・第3学年～第5学年はコンピュータ不使用のプログラミング、第6学年は身近な事例を再現するプログラミングを掲載している。Microbit掲載。(第4学年P.149, 第6学年P.185～)	・A4サイズと紙面が大きく、メモリを読んだり細かい部分を観察したりすることが可能な大きい写真が掲載されている。(第3学年P.30, 第6学年P.14) ・1ページに掲載される文章、絵図などの量や配置、行間サイズ、色合いなどは、見やすく、圧迫感なく読める紙面になっている。各学年の発達段階に応じて問題解決の過程を示すマークの表現を変えている。(中学年:考えよう→高学年:考察)似た実験が同ページにある場合、地色を分けて区別で切るようにしている。(第5学年P.129) ・「計画を立てるコツ」「結果を記録するコツ」「考察するコツ」など問題解決の各過程に活動のヒントを始める単元の問題解決の過程に掲載している。(第5学年P.6～P.8)「ここに注目」として考える視点を示している。(第5学年P.126) ・「問題」を大きめの文字で、科学的な言葉を黒色太字で示している。(第5学年P.72受粉, P.73問題)各学年の発達段階に応じて問題解決の過程を示すマークの表現を変えている。(中学年:考えよう→高学年:考察) ・問題解決の全過程を示すとともに、問題から実験まで、結果から結論までを別ページで示している。 ・インクルーシブ教育を意識した活動や話し合い場面の掲示をしている。(第3学年P.6, P.190)	・考察場面で、予想の振り返しをする吹き出しがある。(第3学年P.82)考察の話し合い例がある。 ・予想、計画を立てる、考察場面などに話し合い例がある。(第5学年P.108) ・記録の取り方、整理の仕方を紹介したり、話し合いや様々な発表方法で伝える場面を掲載したりしている。(第5学年P.73, P.132, P.165, 第6学年P.100, P.189) ・ICT機器を使って伝える方法を紹介している。(第3学年P.103) プレゼンテーションアプリ等を使った発表を促している。(第5学年P.165)
	・問題が一度に2つある場合がある。また、結論が問題に正対していないこと、一般化していないことがある。実験結果から考察することを示しているが考察例がないままに結論を示している。 ・単元末に「ふりかえろう」の練習問題がある。問題はQR付きである。 ・1年間で学習したことをまとめて掲載したページがない。 ・実験にはQRコードによる動画が付属している。 ・巻末に野外観察上の注意や単元ごとに安全にかかわる内容がまとめられている。各実験のページにも安全面に関する内容が赤字で示されている。 ・ノートの書き方が巻末に明記されている。観察記録の方法については、巻単元の中にも記されている。	・単元の導入において、科学的な読み物を提示し、調べようとする気持ちを喚起している。 ・巻頭に問題解決の過程が示されている。また、QRコードを通してより詳しい学習の流れが示されている。 ・問題解決の過程において発揮する問題解決の能力を学年に関係なくキャラクターを用いて強調している。 ・巻頭に各領域の見方や考え方を「領域ゴーグル」として示している。また、問題解決の過程において発揮する「見方・考え方」をキャラクターを用いて強調している。 ・単元を通してどのような力をつけることができるのかを単元の初めに明記し、単元末に振り返るようにしている。また、巻末に各単元の振り返り一覧「理科の世界をふりかえろう」があり、1年間の成長を感じられるようにしている。(第5学年P.190, P.191) キャラクターの成長で自分の成長を感じられるようにしている。 ・巻末のQRコードからデジタルコンテンツにアクセスできる。また、巻末の「ICTを使おう」でタブレットの活用方法を示している。コンテンツは第4学年125, 他学年約160である。	・教科書は高さ2cm短かいA4変形サイズで、第6学年は232ページある。 ・第4学年～第6学年の水、水溶液に関わる単元が同時期にある。第5学年は条件制御の能力育成のために一番初めに「ふりこ」を配列している。 ・各学年とも「科学者を知ろう」コーナーがあり、科学の発展に寄与した日本人が取り上げられている。また、裏表紙に、単元とSDGsの関連が示されている。また、第6学年「人と環境」単元で、SDGsについて考えさせている。 ・算数科との関連を「もっと知りたい」で測っている。(第5学年P.16) ・第5学年、第6学年の天気、土地などに関連する単元に水害や台風、地震などからの防災、減災を取り上げている。 ・水溶液の性質の単元でプログラミング的思考が示されている。(第6学年P.175)第6学年「電気と私たちの生活」には、具体的なプログラミングの手順を明記している。(第6学年P.198)	・写真や図が大きい、又は数が多く見えやすい。 ・問題解決の過程で出てくる登場人物4人が、常に4人で解決しようとしている。 ・巻頭に理科モンスターとして付く力を紹介し、授業の中で力を意識させる工夫がなされている。各単元の問題解決の過程に様々な資質・能力を示すモンスターが配置され、必要に応じて指示・発問をしている。 ・重要な理科用語は太字・ルビ振りで明確にしている。 ・多くの場合、「結果」以降の過程が「問題」提示のページとは別になっている。例外もある。(第5学年P.70, P.71) 各過程の活動がリスト式になっており、チェックを入れながら学習を進められるようになっている。 ・イラストや写真に使われる人の多様性に乏しい。(第6学年P.213のみ)	・条件制御し実験計画を分かりやすく明示するとともに、結果の予想をさせている。(第5学年)考察の視点が示されている。必要に応じて予想の振り返しを促している。 ・考察例、話し合い例はない。 ・考察以外の場面では図や写真、チャート図などとともに話し合い例が示されている。(第5学年P.103) 単元末の「ふりかえろう:活用」で説明をさせる活動を位置付けている。巻末には話し合いの話型が記され、話型は学年に合わせて変化している。 ・友達と共働的に学ぶところに「みんなと」ニコニコマークが付けられている。ICTを使ったプレゼン場面もある。(第4学年P.195)

教育出版社	・問題と結論が正対しており、結論とそれ以外の説明は区別して記してある。 ・各単元末に「ふり返ろう(学習まとめ)」「たしかめよう(練習問題)」が掲載されている。学習したページ番号も表示されている。 ・巻末に1年間の学習内容を「〇学年で学んだこと」としてまとめて掲載されている。 ・巻末に基礎的・基本的な実験や観察の技能を「使い方・調べ方」としてまとめている。 ・安全にかかわる内容が各ページに赤字で記載され、単元ごとにまとめられている。対処法も示されている。 ・ノートの書き方や観察記録の方法が巻頭や単元中に掲載されている。	・魅力ある事象や2つの異なる事象が導入で提示され、「見つけよう」と示されている。(第4学年P.128) 五感を働かせた観察や体験的な活動も取り入れている。(第3学年P.132) ・問題解決の過程を巻頭に「学習の進め方」として提示し、各ページにも問題解決の過程を示している。また、学習の流れが分かるな板書を掲載している。(第3学年P.89) ・問題解決の力を育てる場面に「〇年のチカラ」と表示し、教師の支援を吹き出しで掲載している。(第4学年P.22) ・理科の見方・考え方を働かせている児童の発言例が「見方のかぎ」「考え方のかぎ」示されている。 ・学習前後の変容を実感させる「学習前の〇〇さん」「学習後の〇〇さん」のコーナーがある。(第3学年P.48) ・巻末にデジタルコンテンツにQRコードからアクセスできるウェブ図鑑、メッセージ動画などがある。また、タブレットの使い方についての注意事項が記載されている。	・教科書は高さが2.5cm、短いA4変形サイズで、第6学年は224ページである。 ・第4学年～第6学年の水、水溶液に関わる単元が同時期にある。第5学年は天気から始まっている。年間配当時間の1割程度減じた時間で設定され、10～15時間のゆとりがある。 ・各学年とも巻末に学者等からの「メッセージ」コーナーがあり、学び方や学ぶ楽しさについて語っている。また、SDGsとの関わりがある内容には、SDGsのマークを記し、単元とのかかわりを分かりやすく示している。 ・算数科との関連を「算数とのつながり」と明示している。(第5学年P.201) ・高学年の天気、土地、川の学習に、自然災害と減災、防災が関連付けて掲載されている。(第6学年P.132～P.135) ・「電気の利用」単元に具体的なプログラミングの手順を明記している。(第6学年P.187)	・実験方法や実験図が大きく掲載されている。 ・問題解決の過程が言葉だけでなく、登場人物の表情・ジェスチャーで表記されている。問題解決をするキャラクターに名前がついている。さまざまな子供が登場する。(第6学年P.5、P.98 第3学年P.124) ・「見方のカギ」「考え方のカギ」としてポイントを表記している。 ・重要な理科用語が太字で示され、黄色マーカーで強調されている。 ・問題解決の過程で出てくる登場人物は、単元ごとに違い、個の学びの様子を表している。 ・予想や計画等で話し合う場面では、男女で協力して学習を進めていく様子がイラストであらわされている。	・考察の際に、予想や見通しの振り返りが書かれている。(第6学年P.77) ・考察を話し合う会話例がある。(第3学年P.152) ・巻頭に問題解決における「学習の進め方」「伝え合い」「学び合い」の話型がある。単元中にも会話例がある。 ・単元末に学習のまとめをプレゼンする様子が紹介されている。(第5学年P.185)
啓林館	・問題と結論が正対しているが、結論(分かったこと)とそれ以外も記している。時々、正対していないこともある。(第5学年P.80、P.82) ・単元末に、「たしかめよう」として練習問題が、「活用しよう」として考えと理由を述べる問題がある。巻末に「WaCBT」としてコンピュータを使った試験方法に似せた問題が各学年4題用意されている。(第5学年P.192) ・1年間で学習したことをまとめて掲載したページはない。 ・単元中に、実験方法や観察記録の方法について、写真とイラストを併用して説明している。QRコードで動画で学ぶこともできるようにしてある。(第5学年P.172、P.173) ・安全にかかわる内容は単元の中で明記されている。実験における安全上特に注意する点がマークや赤字で示されている。(第6学年P.105)「みんなで使う実験室」として、理科室の約束や実験の注意事項が詳しく説明されている。(第5学年P.136 第6学年P.90) ・ノート・観察記録の書き方・調査の仕方が巻末に「しりょうしつ」として明記されている。単元末に「まとめノート」として学習のまとめをしたノート例が示されている。(第5学年P.175)	・問題解決の導入に「思い出そう」として既習事項や日常生活についての振り返りから学びをスタートさせている。 ・巻頭に「理科の楽しみ方」として問題解決の過程を示すとともに、各単元にも過程を明記している。 ・主にその学年で育成する問題解決の能力を発揮する場面を強調していないが、発揮する場面(過程)の図や写真を大きく掲載したり、会話例を複数取り上げたりして、問題解決の力の発揮を促している。(第4学年P.30) ・「見方・考え方」を緑アンダーラインで強調している。(第6学年P.14) 巻末に「理科の見方」「理科の考え方」の解説ページ、「理科の『見方・考え方』が役に立ったよ!」として日常生活で役立つ場面の紹介ページがある。(第5学年P.190、P.191) ・単元を見通した問題「はじめて考えよう」があり、単元末に同じ問題を「もう一度考えよう」として投げかけることで、メタ認知を促している。(第5学年P.140、159) ・ICTの活用方法が巻頭に詳しく示されている。(第3学年P.4～P.5)また、単元内の学習過程においても「ICT」として活用方法が示されている。(第3学年P.61)「スマートかいせつ」として、分からないことはQRコードから解説動画を見ることが出来る。各単元内においてQRコードが多数掲載されている。	・教科書は高さが2cm、短いA4変形サイズで、第6学年は216ページある。ページ紙面に適度な余白があり、全体的に詰め込まれた感じがしない。 ・第5学年は、菜の花を使うために、「花のつくり」から始まっている。第4学年、第5学年の水、水溶液に関わる単元が同時期にある。 ・「くらしとリンク」として、各単元末には理科学習と生活のつながりを示している。(第3学年P.59) ・「理科の広場」として発展的な内容や社会科やSDGsとのつながりやが示されている。(第4学年P.124、第5学年P.43) STEAMとして「理科とアート」や「理科とものづくり」など様々な視点から理科を捉えている。 ・巻末の資料に「算数のまど」として算数科との関連を明記している。 ・「with the Earth」として防災と理科学習との関連が記載されている。(第3学年P.58)・防災・減災について、「大地のつくりと変化」の単元で9ページにわたって詳しく取り上げている。(第6学年P.139) ・プログラミングについての記載が第3学年生からある。(第3学年P.55)第6学年において、プログラムの作り方を4ページにわたって説明している。(第6学年P.183)	・昆虫の体のつくりの図解では「頭・胸・腹」の部位が言葉だけでなく色分けして示されている。(第3学年P.74)実物大の胎児(約38週)のイラストがあり、児童に実感させやすい。(第5学年P.94)しかし、比較をする写真が小さい(第6学年P.110)ノートのまとめ方の例も大きく表記されている。(第3学年P.78)扱っている河川が6か所で、それぞれ上流・中流・下流が示されている。(第5学年P.110) ・よく観察して昆虫を描いている例として漫画「ONE PIECE」の一場面を取り上げている。(第3学年P.81) ・写真の登場人物は多種多様な人物である。問題解決の過程で出てくるイラストの登場人物は多様である。 ・重要な理科用語はキーワードとしてページ下にまとめて書き出してある。(第5学年P.47) ・「結果」以降の過程が「問題」提示のページとは別になっている。 ・写真の登場人物は多種多様な人物である。問題解決の過程で出てくるイラストの登場人物は多様で、みんなで考察している様子を表している。	・条件制御し実験計画を分かりやすく明示するとともに、結果の予想をさせている。しかし、考察場面に予想の振り返りを促すものがない。(第5学年) ・考察の話し合い例がある。 ・巻末の「しりょう」に「伝える」として話し方、聞き方、発表の仕方が明記されている。 ・巻末の「伝える」で、ICT機器を使って伝える方法を紹介している。

令和6年度使用小学校教科用図書 調査研究 報告書 (調査員)

教科 生活科 代表者名 金田 敏治

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
東京書籍	・対象と十分にに関わり合う時間を確保できるよう、身近で取り組みやすい学習活動や学習材が、重点的に取り上げられている。 ・小単元の「本文」と「マーク(?♡!)」を用いて主に育成を目指す資質・能力を明確にしており、指導と評価の一体化を目指せるよう配慮されている。 ・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉えられるよう、児童が身近な人々、社会及び自然と関わる姿が、写真や挿絵で、多様に示されている。 ・具体的な活動のイメージがもてるように絵や写真、動作化など児童の発達段階や学習内容に合わせて多様な表現方法を掲載している。(上巻P.21,P.49,P.111) ・家族や地域の大人からの他者評価を多く取り入れ、吹き出しで掲載している。(上巻P.27,P.33,下巻P.97) ・生活上必要な習慣や技能を、学習活動の展開に即して身に付けるためのヒントや資料を、「やくそく」や「かつどうべんりてちょう」に掲載している。(上巻P.65,P.113-P.120)	・単元導入のページで児童の活動写真をダイナミックに掲載し、学習内容に興味・関心を高めている。また、小写真と吹き出しでこれまでの学習を想起させたり、活動の見通しをもたせたりする工夫がされている。(下巻P.8-9) ・登場人物の対話を通して、気付きを関連付けたり、視点を変えて捉え直したりするなど、気付きの質が高まる姿が、「学びをふかめる」というコーナーで具現化されている。(下巻P.14,P.15) ・単元や年間を通して、主体的・対話的で深い学びを実現している姿が、上下巻を通して成長する登場人物で具体的に示されている。 ・紙面下部に「学びのプロセス」を掲載し、児童が生活科の見方・考え方を生かしている姿をイラストを用いて具体的に例示している。(下巻P.12,P.13) ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図ることができるよう、教師の言葉かけや環境構成、板書などの例が、挿絵や吹き出しで示されている。また、「かんさつずかん」で観察する視点を明確にしたカードの書き方を示している。(下巻P.14-P.15,P.34)	・写真や絵を活用して、昔から伝わる伝承遊びや、草花遊び、伝統行事や節句の行事などを、単元の流れや季節に合わせて示している。 ・スタートカリキュラムのページで、国語科や算数科、音楽科、図画工作科、体育科との関連をマークで示している。(上巻P.12-P.13) ・算数科、国語科との関連が、マークやキャラクターの吹き出し等で具体的に示されている。(下巻P.29,P.51) ・SDGsに関連するさまざまな内容を、具体的な活動や体験を通して考えられるよう、活動例を掲載している。	・活動場面写真が大きく、楽しさを伝える。(上巻P.46)イラストや写真の吹き出しで子供に気づかせたいことや活動の流れを知らせている。(上巻P.47) ・吹き出しの言葉が、友達同士で話す言葉と先生や全体に発表するときの丁寧語とに区別している。(上巻P.20-P.21) ・植物の種から発芽、花と連続で最後の1ページで見られるように紙面のデザインを工夫している。(上巻P.28-P.32) ・児童の写真やイラストに外国籍の児童や車いすを使用している児童を入れ、多様性に配慮している。(下巻P.49,P.52-P.53)	・気づきの質を高めるための視点や児童同士の気づきの関連付けを図れるような児童の言葉を例示して深い学びを支援している。 ・単元の流れに沿って表現方法や表現例が児童の発達段階に合わせて具体的に示されている。(下巻P.25) 巻末の「かつどうべんりてちょう」で思考の視点や多様な表現方法が参照できるようにしている。(下巻P.112-P.119)

大日本	・動植物と実際に触れ合っている写真やイラストが掲載されており、飼育して気付いたことや疑問に思ったことを吹き出しで具体的に表している。(上巻P.17) ・「やってみようせいかつか」を設け、見付ける、くらべる、ためすなど生活科の学び方の視点を明示している。(上巻P. 10-P.11) ・地域に住んでいる様々な職種や年齢の人と関わる場面が、掲載されている。(下巻P.56-P.71) ・学習活動の節目に、学年の実態に即した振り返りを書き込む欄(「きもちカード」)を設けている。また、マークの具体的な活用方法も示している。(上巻P.17) ・巻末の「がくしゅうどうぐばこ」に発表の仕方や話し合いの仕方などを具体的に示し、学び方名人として位置付けている。	・単元の導入ページで児童が活動する写真を使用したり、拡大した写真を掲載したりし、興味・関心を引き出す工夫がされている。(上巻P.50-P.51,P.38-P.39) ・気付いてほしいことや疑問に思っていることが、キャラクターやイラストの子供たちの吹き出しに示されており、物事を多角的に捉える工夫がされている。(下巻P.36-P.37) ・活動後の感想や気付きをまとめる振り返りとして、書き込めるワークシートやカードを掲載している。(上巻P.53-P.54) ・カードやビンゴを活用し、児童が楽しみながら活動を進めることができるように工夫している。(上下巻ともにP.16とP.17の間)	・季節の流れを生かした単元構成で、季節ごとに行われる地域の行事や、日本ならではの風物詩や遊びを掲載している。QRコードで季節ごとの地域の祭りや、伝承遊びの紹介などが読み取れる。 ・他教科との関連が深い活動には、関連を示す教科名のマークで示している。(上巻P.54,P.62,P.72,P.134、下巻P38,P.39) ・SDGsに関連する児童の活動例が写真で多数示されている。(下巻P49-50)また、SDGSにもつながる活動には、イラストの児童の吹き出しにマークを付けている。(上巻P.57,P.59等、下巻P.125)	・色覚の特性に配慮した写真の配色、コントラスト、文字情報の記述をしている。(上巻P80-P.81) ・イラストや写真の余白に背景を入れず、白のままで人物やモノに焦点を当てている。(上巻P25-P.26) ・活動中の気づきを話すイラスト・吹き出しと、次の活動や発展へつなげるイラスト・吹き出しとタッチの違う2種類のイラスト・吹き出しを入れている。(下巻P.47) ・モノクロ写真を使うことで、実際に見て感じることを意識づけている。(上巻P82-P.83) ・SDGsマークを付けて低学年なりに気を付けたい行動を示している。	・イラストや写真の吹き出しで子供に気づかせたいことや活動の流れを知らせている。(上巻P24-P.25) ・振り返りを紙面上の気持ちマークで行えるようになっている。1回目は選択制で次からは自分で描きこむ。教師とのやり取りも図示されている。(上巻P.7,P.17) ・巻末の「がくしゅうどうぐばこ」で学び方や表現方法を紹介している。(下巻P.116-P.121)
-----	---	---	--	--	---

学校図書	・「はじまるよ しょうがっこう」の単元を設け、スタートカリキュラムを位置付けている。(上巻P.2-P.11) ・4人のキャラクターのつぶやきやカードの中で児童が自然に見方や考え方を生かしていけるように設定されている。 ・各単元に「やくそく」や「ものしりノート」を掲載し、活動する際に、子供が気を付けることや多様な活動方法を掲載している。(上巻P.17,P.47) ・巻末の「まなびかたずかん」には、調べ方や話し方など生活上必要な技能を掲載している。(上巻P.125-P.136)	・ページ見開きを一つの活動単位とし、めあて、活動、カードによる表現、振り返りの構成となっている。(下巻P.84-P.85) ・紙面右下にキャラクターによる会話を掲載し、学習した事を次の課題につなげるためのヒントが提示されている。(下巻P.85) ・単元末に「もっと」ページを配置し、単元が終わった後も学んだことを生かして、意欲的に活動を持続・発展できるようにしている。(上巻P.46) ・教師や友達との対話から、交流しながら活動していく場面を多く取り上げ、考えが深まるよう工夫されている。	・草花遊び、集団遊び、伝統遊びを掲載している。(上巻P.53-P.54,P.58-P.59,P.114-P.115) ・下巻「まちのきせつ」では、日本各地の春夏秋冬の伝統行事を写真で掲載している。(P.2-P.3,P.18-P.21,P.36-P.37) ・主に表現活動を中心に、算数科、音楽科、図工科、体育科との関連を図っている。また、社会科、理科へのつながりに配慮している。	・親しみやすいキャラクターを使用し、悩み、成長していくストーリーをつくっている。(上巻P.32) ・学習対象物の写真は大きく、児童の活動場面の写真は比較的小さい。文字による表記が多い。(下巻P.74,P.79) ・たくさんの情報を小さめの写真やイラストで紹介している。(下巻P.10,P.14-P.15) ・紙面のサイズが他社に比べ比較的小さい。 ・図鑑ページが鮮やかなイラストが多い。(上巻P.68)	- 観察カードを時系列に並べてその単元の振り返りができるようにしている。(下巻P.57) - 単元の最後に「もっと○○したい」というタイトルのページがあり、話し合う場を設定している。(上巻P.76) ・巻末の「学び方図かん」の中で単元ごとの活動マークとその具体的な方法を提示している。(下巻P.113-P.123)
-------------	--	---	---	---	---

教育出版	・「はじめのいっぽ」の単元を設け、スタートカリキュラムを位置づけている。幼児期までに育ってほしい姿をイラストで掲載し、小学校生活と比較している。(上巻P.3-P.9) ・単元の導入ページに「わくわくスイッチ」を設け、子供の多様な思いや願いを言葉に表し、動機付けを共有できるように工夫されている。(上巻P.11) ・巻末の「学びのポケット」に様々な事象を見るための視点や、道具の使い方、他教科とのつながりを明記している。(下巻P.109-P.129) ・見開き右ページ、右端にコラム欄を設けている。「やくそく」で体験学習の中で身に付ける知識や技能、マナーを明記し、「ひんと」で学習活動を助ける学び方を記している。また、外での学習の際には、コラム欄の横に「てあらいうがい」マークを明記している。(上巻P.13,P.33,P.103)	・見開き2ページが1つの学習内容になっており、左上部に小単元「サイコロ」を提示し、その単元で身に付けた資質・能力を明記している。 ・紙面下部に単元インデックスを設け、1年間の学習を見通すことができる。また「はっけんロード」を記し、試行錯誤するキャラクターと一緒に学習を進め、思考の流れが明確化される工夫をしている。 ・「はてな」のマークが、場面ごとに考えてほしい具体的な問いかけをしている。(上巻P.14) ・単元ごとに振り返りページ「なにをかんじたかな」を設定し、言語活動、絵、カード、身体表現など様々な表現方法を例示している。(上巻P.20-P.21) ・振り返りページに自己評価として、「ぐんぐんはしご」や書き込み欄を設けている。(上巻P.20)	・季節ごとの地域行事や特産品が写真で掲載し、QRコードから、地域の方による紹介動画が読み込めるようになっている。(上巻P.53,P.93,下巻P.21,P.34-P.35,P.53,P.75,P.95) ・「はってん」コラムで、理科や社会科へのつながりを示している。(下巻P.9,P.31) ・巻末「学びのポケット」には、関連する他教科名を示している。(上巻P.117-P.127,下巻P.109-P.127) ・SDGsとの関連を写真や、イラストの活動例で示している。(下巻P.72-P.73,P.122-P.123) ・単元構成の順は季節順ではなく、栽培、生き物、家族等のテーマ毎にまとめた構成になっている。	・キャラクターが道をたどりながら学習の進み具合を示している。(上巻P.11-P.21) ・図鑑ページに掲載している種類が多い。(上巻P.69) ・二人の児童と先生(いずれも写真)と一緒に学習を進めるようにしている。(上巻P.79) ・単元の扉が片側1ページで、片側には多様な思いや願いを例示して動機づけのためのページを設けている。(下巻P.38-P.39)	・つぶやきや対話を迷路で示して試行錯誤できるようにしている。(上巻P.71) ・児童の活動している写真に吹き出しをつけて、気づきを例示している。(下巻P.84-P.85) 巻末の「学びのポケット」で学び方や表現方法を紹介している。(下巻P.110-P.119)
------	--	---	---	--	---

光村図書	・別冊の「ひろがるせいかつてん」では、日常生活に必要な習慣や技能、単元に関わる資料を写真とイラストで掲載されている。 ・単元の導入ページには、児童が活動の見通しを持てる問いかけの言葉や身近な学習材の写真が掲載されている。(上巻P.56-P.57) ・小単元ごとに「ふりかえろう」のコーナーが設けられ、観点ごとに沿った振り返りを行えるよう工夫されている。(上巻P.34-P.35) ・小単元は、見開き完結の構成にされており、活動が一覧できるようになっている。(上巻P.34-P.35)	・紙面右下の「学びのヒント」には、考え方のヒントや活動や表現方法のヒントを掲示している。(上巻P.40-P.44) ・単元末に「たのしいまいにちにつなげよう」を設け、単元での学びを、日常生活で生かしたり、生活を豊かにしたりするヒントを提示している。(上巻P.62-P.63) ・単元を導入、展開、振り返りで構成し、学習の見通しを持ちやすくする工夫がされている。 ・学習活動の過程で児童がもつ疑問や気づきを絵と吹き出しでストーリー化して掲載されている。	・スタートカリキュラムのページで、国語、算数、図画工作、道徳、音楽、体育との関連が写真で示されている。 ・季節の風物詩や祭りを写真で紹介している。(上巻P.54-P.55, P.86-P.87)(下巻P.12-P.13, P.44-P.45, P.56-P.57, P.84-P.85) ・古くから伝わる季節の草花遊びや木の実を使った遊びを写真で示し、巻末に作り方を掲載している。(上巻P.46-P.47, P.72-P.73, 上巻別冊「ひろがるせいかつてん」P.13-P.15) ・季節に沿った単元構成になっている。 ・SDGsとの関連を公式のカラーホイールマークで示している。(上巻巻末P.7-P.19, 下巻P.55, 下巻別冊P.27) ・3学年以降の学習との関連を示している。(下巻P.97)	・絵本作家のイラストを使い、子供の素朴な疑問や自然な反応を紹介して、児童が楽しめるとともに多様性に配慮している。(上巻P.27) ・図鑑ページを野外観察の際に切り離して単独で使えるシートになっている。(上巻別冊) ・児童の活動例写真が多く、イラストや写真のサイズや配列が縦横そろっているものが多い。(上巻P.46-P.47) ・単元の扉(見開き2ページ)の対象物の写真と単元名の文字が大きく示されている。(下巻P.24-P.25)	・毎時間振り返りの欄があり、気持ちと振り返りの視点を明示している。(下巻P.37, P.39, P.41, P.42) ・児童が対話等を行い、学びに向かえるように活動ごとに学び方のヒント(六角形の囲み)がある。(上巻P.70) 別冊の「ひろがるせいかつてん」で学び方や表現方法を紹介している。(下巻別冊P.8-P.13)
-------------	---	---	--	---	---

啓林館	・見る、聞く、触れるなど児童が体全体で身近な環境に直接働きかける学習活動が行えるように配慮されている。 ・「すたあとぶっく」単元が設定されており、幼児期に育まれた資質・能力を発揮しながら楽しく安心して学校生活が始められるように工夫されている。(上巻P.1-P.16) ・「こんなときどうしよう」や「学びのヒント」を掲載し、礼儀やマナーなど基本的生活習慣や生活技能、健康や安全に関する知識が着実に身に付くように工夫されている。 ・「びっくりずかん」や「デジタルたんけんブック」には、ダイナミックな写真や多様な資料を掲載し知識の習得をサポートしている。(上巻P.78-P.83) ・巻末資料「がくしゅうずかん」には、調べ方・記録の仕方・まとめ方、道具や用具の使い方、安全上の注意などがしめされており、基本的な知識及び技能や学び方が身に付くよう工夫されている。(上巻P.118-P.127)	・単元が、「わくわく」、「いきいき」、「ぐんぐん」の三段階で構成され、単元を通して活動が連続しながら発展、深化し、マークで可視化されることで、児童が学習の流れを見通すことができるよう工夫されている。 ・紙面右下の「めくり言葉」には「次はこうしたい」「もっとこうしたい」という次の活動に向けての思いや願いが例示され、単元を通して学びが連続的・発展的に深まるよう工夫されている。(下巻P.50-P.51) ・見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの視点を学びのキーワードとして明記し、児童の思考の流れを促したり、学習を方向付けたり、気付きの質を高めたりする教師の支援の例を示している。(上巻P.74-P.75) ・「ひろがるきもち」には、生活科の学びが日常生活に広がり、児童の主体的な学びを促す言葉かけや写真が掲載されている。(下巻P.55) ・単元末に「できるかな できたかな？」を設け、学習を通して気付いたこと、や分かったこと、できるようになったことなどを主体的に確かめることができるように、振り返りの視点を例示している。(上巻P.60-P.61)	・上巻には伝統的な遊びを楽しむ活動を、下巻には季節の行事や各地の伝統行事を例示している。(上巻P.49、P.75、P.93、P.97、P.101、P.108、下巻P.10-P.11、P.58-P.59、P.74-P.75、P.98-P.99)さらに『デジタルたんけんブック』には、地域の伝統野菜や祭り、行事食などを掲載している。 ・スタートカリキュラムのページで、国語、算数、図画工作、道徳、音楽、体育との関連を写真で示している。(上巻P.10-P.11) ・国語、算数、図画工作、体育、理科、社会科との関連を図った学習活動例を写真やイラストで掲載し、マークで示している。(上巻P.31、P.60-P.61、下巻P.69) ・「第3学年へのステップブック」で、幼児期から生活科を経て第3学年の教科へのつながりを示している。(下巻巻末) ・町の中のSGDsの取り組みをイラストで紹介している。さらにQRコンテンツに特設サイトが設けられている。(下巻P.114-P.115)	・紙面のサイズが他社と比べて比較的小さく作られている。 ・写真で代表的な学習材を取り上げ、紙面が整理されている。 ・同一タッチのイラストで統一されている。(上巻P.12-p.13)	・イラストや写真の吹き出しで子供に気づかせたいことや感じさせたい自分の成長について知らせている。(上巻P.55-P.54) ・ページ右端にめくり言葉(次の活動へつなげる疑問や思い)を掲載し、意欲付けや学習のつながりを図っている。(上巻P.29-P.31) ・単元の流れの中で児童の表現例や板書例が具体的に示されている。(下巻P.80) 巻末の「がくしゅうずかん」で学び方や表現方法を紹介している。(下巻P.113、P.116-P.125)
-----	---	---	--	---	---

令和6年度使用小学校教科用図書 調査研究 報告書 (調査員)

教科 音楽科 代表者名 中谷 浩子

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
教出	・題材における学習のめあては、大切な言葉に色がついて示されている。しかし、共通教材については、めあてが示されていない。 ・共通教材やリコーダーの練習曲等を除き、共通事項に示された音楽を形づくっている要素を右ページの上に示し、中・高学年にはメモ欄がある。 ・共通事項に示された音楽を形づくっている要素を巻末に「音楽のもと」をまとめとして示している。 ・第2学年以上の導入部分に、「スキルアップ 歌声とリズムのトレーニング」と題して、常時活動例が示されている。 ・リコーダーの音域について、3年はレから高いレまで、4年はド、ソ#, 高いミまでを示している。 ・第3学年までは、拍子を意識した活動がある。第4学年で4分の2、3、4拍子を学習する。第5学年で8分の6拍子を学習する。	・音楽づくりにおいて、学習の手順が示されている。 ・全学年において、「まなびナビ」として、学習内容が示されている。さらに、第3学年以上は、「学び合う音楽」として学び方を例示している。 ・第4学年から第6学年で、表紙裏のページに音楽に関係する世界で活躍する人を紹介したページとなっている。 ・「まなびリンク」として、二次元コードがあり、奏法や解説動画、音源、ワークシート・解説資料、演奏と楽譜のアニメーションなどのウェブコンテンツにアクセスできる。	・題材や教材は、各学年、全学年を通して系統的・発展的に構成されている。 ・全学年において、巻末に「Short Time Learning」のコーナーがあり、英語の歌唱曲がある。 ・児童の発達段階に応じて、全学年に「にっぽんのうた みんなのうた」が巻末のページに示されている。また、共通教材の一部にも「にっぽんのうた みんなのうた」のマークがある。 ・「音楽のおくりもの」「さんぽ」の曲は低・中・高学年それぞれの発達段階に合わせた編成で全学年に掲載されている。	・楽器の演奏法について、写真や挿絵で示されている。 ・第3学年から第6学年で、共通教材のうち1曲は、折込を使ったワイドな紙面に写真を載せている。 ・折込を使ったワイドな紙面の裏側に第1学年と第2学年には、演奏方法を示した楽器図鑑がある。第3学年から第6学年には、音符や休符、記号、リコーダーの運指表がある。 ・「にっぽんのうた みんなのうた」が巻末に折込を使ったワイドな紙面の表側と併せて3ページ分示されている。 ・教材曲全ての作詞・作曲者名にふりがなが振られている。	・第2学年以上は、「音楽を表すいろいろな言葉」が一覧となって示されている。 ・グループで学習を進める場面の例示がある。(3年P.60, 6年P.52-P.53) ・感じたことと気づいたことを書くよう、曲の流れに合わせて記入する欄がある。(4年P.55, 5年P.53)

教芸

・すべての題材・教材において、学習のめあて、学習内容、学習活動を展開するための具体的な手立てが一目で分かるよう示されている。また、学習を振り返って、今後の学習につなげるようなまとめが示されている。	・音楽づくりにおいて、学習の手順が示されている。	・題材や教材は、各学年、全学年を通して系統的・発展的に構成されていて、題材の中で、表現と鑑賞の教材が関連されるよう配列されている。	・全学年において、題材のまとまりごとに学習したことをふり返ることができる「ふり返りのページ」が巻末にある。ページ番号付きで示されている。	・表現教材及び鑑賞教材において、譜例や図形譜、挿絵を用いた説明がある。
・共通事項に示された音楽を形づくっている要素が全ての教材の見開き右ページ、右下に示している。	・「何を学ぶか」「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」が5つのアイコン(考える、見つける、歌う等)と説明で示されている。	・題材のねらいに即して、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の教材がバランスよく配置されている。	・紙面の大きさは適切で、レイアウトも見やすく統一感がある。	・グループで学習する場面において、学習のねらいの達成に向けて考えてほしいことや活動時の会話を想定した吹き出しが例示されている。(1年P.55,2年P.40-41,P.47,3年P.58-P.59,4年P.63,5年P.25,33,39, 6年P.20-P.23,P.37)
・第1学年から第4学年に学習内容に応じて常時活動が示されている。鍵盤ハーモニカやリコーダーを活用した常時活動は次の学習にもつながる内容となっている。	・具体的な活動例やヒント、資料、作品例やワークシート例等が示されている。	・共通教材は、「こころのうた」として古くから歌い継がれ、これからも歌い継いでいきたい歌として示されている。	・題材ごとに通し番号が振られ、インデックスと色分けによって題材のまとまりが分かりやすく示されている。	・表現教材及び鑑賞教材において、感じたことと気付いたことを書くための表を掲載している。(3年P.47,6年P.33,35,37)
・「歌声ルーム」として、歌い方のポイント、口の開け方や姿勢、体や息の使い方など必要な技能が示されている。	・表紙裏のページには、学習内容との関連(リコーダー、歌唱等)について音楽を様々な視点からとらえる内容を載せている。(3～6年)	・共通教材とは別に、児童の発達段階に応じて、全学年に「歌いつごう日本の歌」のページが巻末にある。	・楽器の演奏法について写真や挿絵で示されている。	
・リコーダーの音域について、第3学年はドから高いレまで、第4学年はシ♭、高いソまで示している。また、リコーダーの手入れの仕方が示されている。(3年P.21)	・二次元コードがあり、奏法や解説、音源、音楽づくりの教材、図形楽譜の再生等がまとめられている「ムーブの部屋」(ウェブコンテンツ)にアクセスできる。	・英語の歌唱曲がある。(3年P.77, 4年P.79, 5年P.36, 6年P.64)		
・第2学年までは、拍子を意識した活動がある。第3学年で4分の2, 3, 4拍子を学習する。第4学年で8分の6拍子を学習する。		・発展的な学習内容として、共通教材のもととなった曲についても掲載されている。(6年P.46-P.47)		

令和6年度使用小学校教科用図書 調査研究 報告書 (調査員)

教科 図画工作科

代表者名 田中辰貴

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
開隆堂	・図画工作科で育てたい力が全編にわたって「学習のめあて」として明示され、児童の自己評価「ふりかえり」と併せて、学習の目標と内容及び育てたい力との関連が明確になっている。 ・各題材で育てたい資質・能力に対応させた三つの目標のうち、一つを中心的な目標として強調して示し、主な目標に対応したキャラクターが児童の学習を深める支援を行うように全編を通して編集している。 ・すべての学年において巻末に「学びの資料」を8ページ設け(各学年P.58-65)、表現に必要な用具の扱い方や技法、材料についてイラストや写真を使って説明している。特に安全面や片付け方について注意喚起の説明がある。さらに使い方を動画で見るためのQRコードがある。	・各題材で、楽しい題材名、わかりやすいリード文で学習への意欲を喚起するように構成している。 ・各題材ごとに発想の手掛かりとなる工夫や気づき、思考の内容を、制作している児童の写真に吹き出しをつけて示している。 ・各題材名の下に、活動のきっかけになる文を、「～しよう」と児童に語りかけよう言葉で示している。 ・各学年に鑑賞教材が取り上げられており、テーマに沿った児童作品や各国の多種多様な作品も掲載している。 (1・2年上P.22-P.23、1・2年下P.2-P.3、P.42-43、3・4年上P.26-P.27、3・4年下P.2-P.3、P.10-P.11、5・6年上P.2-P.3、P.46-P.47、5・6年下P.2-P.3、P.24-25)	・各学年で発達段階に応じて、実践に適切な季節及び行事、内容(造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞)や学習指導要領で扱われる用具・材料によって、題材をカリキュラム順に配列されている。 ・各題材の紙面下段右に「あわせて学ぼう」として教科名とともに、具体的な活動を想起させる文章を示し、教科横断的な学習への手立てとなるように構成している。また、「みんなのギャラリー」(全学年)や「つながる造形」(中高学年)では、社会科など他教科との関連を図りつつ、各地の伝統文化や国際理解の一端を紹介している。 (各学年P.56-P.57、3・4年上P.54-P.55、3・4年下P.54-P.55、5・6年上P.52-P.55、5・6年下P.54-P.57)	・各題材に必要なつくり方や技能・知識を写真やイラストで明示している。 (各学年P.58-65、1・2年下P.44-P.45、3・4年下P.32-P.33、5・6年下P.18-P.19) ・各学年に、短時間で発想や構想の方法を知ることができる「ひらめきショートチャレンジ」を設けている。(各学年P.64) ・各題材ごとに、題材名の表記を内容がイメージされるようにデザインしている。また、作品製作や活動にあたっての児童の思いを、作品のコメントとして児童の言葉で表現している。 ・各題材に「タブレットたんまつで見てみよう」を示し、タブレットで様々なコンテンツが利用できるようにしている。 (各学年P.63、1・2年上P.8-P.9、1・2年下P.36-P.37、3・4年上P.24-P.25、3・4年下P.46-P.47、5・6年上P.14-P.19、5・6年下P.32-P.33)	・各題材で「ふりかえり」の視点を「～かな」という問いの形で示し、友達と話し合いながら学習の振り返りができるようにしている。 ・発想、構想や鑑賞などの場面で、児童がコミュニケーションをとりながら活動している写真を掲載するとともに、対話や対話を促す文を示している。(1・2年上P.9-P.49、1・2年下P.8-P.39、3・4年上P.29-P.45、3・4年下P.21-P.39、5・6年上P.3-5P.49、5・6年下P.28-P.39) ・コミュニケーションをとりながら共同で制作を行うことを意図した題材を多く設定している。(1・2年上P.10-P.11、1・2年下P.22-P.23、3・4年上P.42-P.43、3・4年下P.38-P.39、5・6年上P.12-P.13、5・6年下P.10-P.11) ・各題材で「アイデアシート」「かんしょうシート」「ふりかえりシート」などのワークシートをQRコードから参照できるように示している。

		・造形活動や造形作品を通して我が国の文化や郷土のよさ外国の文化などを伝えられるように構成している。また、諸外国の児童の作品も適宜取り上げて紹介している。(各学年P.56-P.57,1・2年下P.18-P.19,3・4年上P.52-P.53,3・4年下P.22-P.23,5・6年下P.38-P.39) ・美術館鑑賞の仕方が掲載されており、美術館での過ごし方や作品鑑賞のポイントを説明している。(5・6年上P.52-P.53)			
日本文教出版	・1・2年下、3・4年下では、2年間を通した学びの振り返りページを設けている。(1・2年下P.54,3・4年下P.54) また、5・6年下には「図画工作での学びを振り返ってみよう」のページを設け(P.66-P.67),6年間の学びを振り返ることができるようになっている。 ・各題材ごとに学習のめあてを資質・能力の三つの視点に基づいて設定し、三種類のマークを使ってそれぞれのめあてを文章で示し、全編を通じて特に大切なめあてを吹き出しで表している。 ・すべての学年において巻末に「材料と用具のひきだし」を9ページを設け、表現に必要な用具の扱い方や技法、材料について、イラストや写真で説明している。さらに、用具の基本的な使い方を動画で見るためのQRコードがある。	・各題材名の下に、活動への意欲を引き出す投げかけの言葉を示している。 ・ほぼすべての題材で、制作している児童の写真に吹き出しを付けて児童の思いや感じ方を示している。 ・すべての題材ページには「特に大切なめあてのヒント(表現のヒント)」と「鑑賞のヒント」を示し、表現と鑑賞を往還しながら学習できるようにしている。 ・題材の内容と関連の深い美術作品などを掲載した「教科書美術館」が、題材ページと連続した構成で、表現と鑑賞を関連付けて学習できるようにしている。(1・2年下P.42-P.45, P.47,3・4年上P.24-P.29,3・4年下P.22-P.25,5・6年上P.22-P.25,5・6年下P.38-P.41)	・各学年で、他教科等との関連や季節及び学習内容(造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞)を踏まえて実践時期を考慮して題材を配列している。 ・日本の伝統文化にかかわる題材や、伝統工芸、美術作品などを掲載し、その良さを理解できるよう構成している。また、諸外国の児童の作品や作家の作品、建築物なども取り上げている。(1・2年上P.24-P.25,1・2年下P.26-P.27,3・4年上P.20-P.21,3・4年下P.18-P.19,P.22-P.23,5・6年上P.24-P.25,5・6年下P.18-P.19,P.26-P.27,P.39-P.40) ・各題材ごとに「つながる学び」として、関連する他教科・領域名等を示している。特に低学年においては、生活科と関連のある題材・事例を多く掲載している。(1・2年上P.12-P.13,P.26-P.29,P.36-P.37,P.42-43,P.44-4,1・2年下P.18-P.19,P.28-P.29,P.48-P.49,P.52-P.53) ・中高学年においては、総合的な学習の時間や特別活動と関連させた事例を多く掲載している。(3・4年上P.43,P.53,3・4年下P.34-P.35,5・6年上P.36,5・6年下P.50-P.51)	・各学年では、仕組みのつくり方などを図示している。(1・2年上P.22,1・2年下P.18, 3・4年上P.12,3・4年下P.14,5・6年上P.18,5・6年下P.22)また、高学年の題材では、活動の大まかな流れを数字とともに示している。(5・6年上P.8-P.11,5・6年下P.10-P.13) ・各学年で、発想や構想、表現のヒントになる「図工のみかた」を写真やイラストとともに示している。(1・2年上P.30-P.31,1・2年下P.24-P.25,3・4年上P.34-P.35,3・4年下P.16-P.17,5・6年上P.46-P.47,5・6年下P.20-P.21) ・各題材ごとに、活動や作品に関して児童がイメージしたり発想したりしたことを、児童の言葉で作品コメントや吹き出しで表現している。 ・タブレット端末の活用が考えられる題材については、「タブレットアイコン」を示している。(1・2年上P.54-P.55,1・2年下P.52-P.53,3・4年上P.32-P.33,3・4年下P.40-P.41,5・6年上P.54-P.55,5・6年下P.42-P.45)	・各題材で「ふりかえり」の視点を「～かな」という問いの形で示し、友達と話し合いながら学習の振り返りができるようにしている。 ・発想、構想や鑑賞などの場面で、児童がコミュニケーションをとりながら活動している写真を掲載しているとともに、対話や対話を促す文を示している。(1・2年上P.26,P.34,1・2年下P.15,P.37,3・4年上P.20,P.49,3・4年下P.25-P.53,5・6年上P.13,P.39,5・6年下P.23,P.51) ・鑑賞の題材において、複数の鑑賞方法を示したり、言語活動の例を示したりしている。(1・2年上P.56,3・4年上P.54,3・4年下P.5-P.7,5・6年上P.7,5・6年下P.24-P.25) ・アイデアをまとめたり記録したりするための「図工ノート」を示している。(3・4年上P.6-P.7,5・6年下P.6-P.7)

令和6年度使用小学校教科用図書 調査研究 報告書 (調査員)

教科 家庭科 代表者名 友道 治代

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
東京書籍	・巻頭・巻末の「いつも確かめよう」のページで、20項目の基本的な器具や用具の扱い方を写真やイラストで確認できるようになっている。(P.8～P.11,P136～P.145) ・28箇所の＋安全マークで安全に関わる内容をチェックを入れたり、イラストを見たりして確認したりして確認できるようになっている。(P.8等) ・ページの下にメモとして、用語の解説や生活の知恵などが記されている。(P.16等) ・使う前と後で同じ数か確かめるために、ぬい針とまち針の本数を書くところがある。(P.29) ・153個の動画コンテンツで調理や裁縫、掃除の仕方などを示しており、手順や大切なポイント等を視覚的に確認できるようになっている。(P.2等) ・「できたかな」でチェックマークを入れて振り返らせることで、各単元で必要な技能を確認することができるようになっている。(P.17等) ・ステップごとに「振り返えろう」のマークを提示し、振り返らせることでステップごとの学習を振り返ることができるようになっている。(P.13等)	・巻頭に「家庭科の窓」として2年間を通した学習内容を登山になぞらえて15項目示しており、見直しをもって学習に取り組むことができるようになっている。(P.1.～P.2) ・巻頭に「成長の記録」として、学んだことを振り返るページがあり、できるようになったことを自覚して次への意欲も記入することができるようになっている。2年間で15項目(P.6～P.7) ・サラダのソースを3種類提示しており、好みで選んだり家で実践したりできるようになっている。(P.23) ・「深めよう」で学んだことを生かして家庭でも実践できるように促している。18箇所(P.19等) ・「夏休みわくわくチャレンジ！」で学校で学んだことを家庭でも実践してみるように促している。(P.35,P.101) ・SDGsを紹介し、暮らしの中で自分にどんな行動ができるか考えさせている。(P.43) ・「生活を変えるチャンス！」のページを3箇所設定し、学んだことを生かして自分の生活を見直し、計画・実践することができるようになっている。(P.65～P.67,P.121,P.134) ・6年生の最後の単元で、家庭や地域の一員として活動した事例を紹介し、自分はどんなことをするか考えさせるようになっている。(P.128～P.133) ・「日々の備え」を設定し、災害の際の備えとして、日々の生活で生かしていける内容を紹介している。(P.34等) ・日本の伝統・文化を紹介し、食文化に興味を持たせるようになっている。(P.18等)	・教科横断的な視点で組み立てていく時の一助となるもの8つを関連マークで示している。(P.33等) ・「ほかの教科の学習、中学校の学習との関わりを見てみよう。」として、丸を重ねたマークを示し、教科名、学年、単元内容を示している。 ・5年生で8題材、6年生で7題材が設定されている。 ・5年生の第4題材では、消費生活と環境を複合的に扱っており、SDGsにつなげている。 ・6年生の第11題材、第14題材は住まい方(生活)と着方(衣生活)を複合的に扱っている。 ・伝統文化の内容には「伝統マーク」が付されている。(P.18等) ・各ページのページ番号の横には、家庭科に関する語句の英単語が45個記載(表が英語で裏が日本語)されており、外国語等との関連も配慮されている。	・本文の書体は、ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ・内容ごとに配色を統一し、見開き右側にインデックスとして題材番号を示している。 ・ワークシート、実技動画など153のコンテンツがある。2次元コードは見開き右上に固定されている。	・主に「活動」のマークで示されているところで、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を取り上げている。(P.13等) ・14題材で「話し合おう」の活動を設定し、友達と意見交流する活動を設定している。(P.13等) ・全題材で「深めよう」の活動を設定し、学習したことを生活の中で生かし、実践する活動を通して、生活をよりよくすることを考える活動を設定している。(P.19等) ・10の題材で「調べよう」という活動を設定し、調べたデータから、分かることや課題を考える活動へとつなげている。(P.23等) ・トライシートとしてデジタル思考ツールがQRコンテンツとして掲載されており、タブレットを使って一人一人が活用できるようになっている。(P.13等)

開隆堂

・ほぼ全てのページにデジタルコンテンツが添付してあり(300以上)。児童が手順や大切なポイントを視覚的に確認しながら学習を進められるようになっている。(P.9等) ・各単元の最初のページに「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つのステップがめあてとして示されており、めあてを確認できるとともに、振り返りもできるようになっている。(P.8等) ・各ページの下に豆知識として、用語の解説や生活の知恵などが記されている。(P.8等) ・巻末に野菜の切り方や皮のむき方、野菜の大きさなどを、写真で表してあり、視覚的に理解しやすくなっている。(P.148等) ・27箇所安全マークで安全に関わる内容を確認できるようになっている。(P.11等) ・使う前と後で同じ本数が確かめるために、ぬい針とまち針の本数を書くところがある。(P.21) ・「できたかな」でチェックマークを入れて振り返らせることで、各単元に必要な技能を確認することができる。(P.15等)	・巻頭ではガイダンスとして、2年間を通した学習の流れが示してある。また、誕生から中学生までの広がりと、家庭・地域・社会へと広がる空間軸の広がりを実現したページとなっている。(P.1-P.2) ・巻末に2年間の学習を中学校につなげようというページがあり、これまでの学習のまとめとともに、中学校の技術・家庭科への意欲を持たせるようになっている。(P.136) ・サラダのソースを3種類提示してあり、好みで選んだり家で実践したりできるようになっている。(P.19) ・19箇所の「生かす・深める」で、学んだことを生かして家庭でも実践できるように促している。(P.18等) ・キャリアインタビューのページで家庭科に関わる仕事をする21人の話を掲載し、視野を広げ、持続可能な未来について考えさせるようになっている。(P.138等) ・生活の課題と実践例①～④を紹介し、課題発見から解決振り返りまで行うような例が示してあり、学習したことを生かして主体的に興味をもった学習を進められるようになっている。(P.80-83) ・献立を工夫しての学習では、多くのおかずの例を写真で載せており、炒めたりゆでたりするおかずについて様々な種類を知ることができる。(P.118、P.120) ・「防災」のコーナーを3箇所設定し、災害の際の備えとして、家庭や地域で実践するといふ内容を紹介している。(P.144等) ・衣食住に関する特設ページを設け、伝統的な文化に興味を持たせることができるようになっている。(P.57等)	・教科横断的な視点で組み立てていく時の一助となるものを関連マークで示している。(P.11等) ・「他教科での学習と関連する内容」として「関連マーク」を27箇所示し、教科等名、学年、単元概要を示している。 ・5年生で11題材、6年生で9題材を設定されている。 ・SDGsについては、5年生で「消費生活」、6年生で「持続可能な社会のために」と、スモールステップで扱っている。 ・5年生の第9題材で、衣服の着方、第10題材で住まい方(温かい)、6年生の第4題材衣服の手入れ、第5題材住まい方(涼しい)と分けており、スモールステップで扱っている。 ・各ページのページ番号の横には、家庭科用語の日本語と英語の表記を115個、掲載している。	・本文の書体は、ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ・内容ごとに配色を統一し、見開き右側にインデックスとして内容を示している。 ・ワークシート、実技動画など300以上のコンテンツがある。2次元コードは見開き右上に固定されている。 ・裏表紙にものさしの目盛りと野菜の切り方の名称と写真が載っている。また、野菜の切り方と大きさのめやすが実物大で示されている。(P.149)	・主に「考えよう」「話し合おう」「やってみよう」のマークで示されているところで、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を取り上げている。(P.16等) ・7題材で「考えよう」のマークを入れて、そこで使われる材料だけでなく、様々なものを調べたり比較したりして考える活動を設定している。(P.16等) ・7題材で「話し合おう」を設定し、課題に取り組む場面や振り返りの場面などで児童同士の意見意見交換場面や発表の場面を設定している。(P.22等) ・5題材で「やってみよう」を設定し、インタビューや制作などを通して、学んだ知識や技能を生活に生かす方法を考えることができるようになっている。(P.30等) ・書き込みカードがQRコンテンツとして掲載されており、タブレットを使って一人一人が活用できるようになっている。(P.9-P.11等)
--	---	--	---	--

令和6年度使用小学校教科用図書 調査研究 報告書 (調査員)

教科 道徳科 代表者名 榎並 愛子

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習等を取り入れる等、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表等の資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
東京書籍	・巻頭に、各学年1年間のテーマが詩で考えるページが設定されている。 ・教材に広がりをもたせたり、深く考えさせたりできるよう、つながる・広がるのコーナーが設定されている。(3年生以上は全て設定されている。) ・どんな学びをするのかなというタイトルで「気付く」「考える」「広げる・深める」のステップで学び方が示されている。(例:2年生P.6) ・ちょっと話し合ってみようのコーナーでは、場面絵と会話文が示されており、考えたことを話し合えるようになっている。(P.8) ・内容についての主発問と自己を振り返ったり生活に生かすための発問が明記されている。(例:4年生P.15)	・各学年で「もんだいを見つけて考えよう」というコーナーがあり、自分たちで問題を見つけて考えるページが設定されている。(例:3年生P.52) ・各学年で「演じて考えよう」というコーナーがあり、お話に出てくる人になりきって、言葉や動きを想像する等体験的に考えるページが設定されている。(例:6年生P.123) ・各学年に「やってみて考えよう」というコーナーがあり、体験的に心情を考えるページが設定されている。 教材の冒頭が、学習するテーマと教材のタイトルのみとなっておりシンプルである。	・いじめに関するユニットだけでなく、情報モラル等5つのユニットで構成されている。(例:3年生P.2) ・他教科との関連が分かるように記されている。(例:5年生P.83「今日からできるエシカル消費」〔社会・家庭〕)	・教材によっては、内容と生活とを結びつけるためのデジタルコンテンツ(動画・写真)が設定されている。(例:6年生P.23) ・場面把握のための写真や挿絵が多く使用されている。 ・目次では、テーマからも内容項目からも各題材へとべるようにページが書かれている。 ・UD字体が使われている。 ・全ての教材において、インターネットから朗読、スライドショー、デジタルノートを利用することができる。 ・中学校に進学することを意識した詩が掲載されている。(6年生 P.186-P.187)	・巻末に切り取って心情円盤が作れるようになっている。(4年生以上) ・考えをまとめたり、振り返ったりするためのワークシートをダウンロードすることができる。(例:3年生P.172) ・考えるためのツールが用意されている。1年生～3年生は心のものさし、心のメーター、心の地図という表記(例:3年生P.176)で、4年生以上は、心情スケール、心のメーター、心の地図として示されている。(例:P.176)

教育出版	・内容についての主発問と生活に生かすための発問が明記されている。 ・「道徳ではこんな学び方をするよ」というコーナーがあり、「考えよう」「深めよう」「つなげよう」のステップにおける具体的な学習活動が示されている。(例:4年生P.4) ・「道徳の学習をもっと広げよう」が3年生以上にあり,学びリンクを活用できるように設定されている。学びリンクは,教材の理解を助けたり,学習を広げたりする資料のページに進むことができる。(例:3年生P.6)また,タブレットを学習に生かそうも設定されており,タブレットを学習のいろいろな場面で活用するように促している。(例:3年生P.7)	・問題や課題を解決する力を養う教材が各学年2～4に設定されている。 ・体験しながら考える教材が各学年3～7に設定されている。 ・全学年にコラムと巻末資料があり,教材内容を多面的・多角的に理解するための資料や日常生活に生かせる資料等がある。(例:4年生P.116「受けつがれてきた命―屋久島三代杉ーのコラムとしてP.121に日本の世界自然遺産が載っている。)	・特に大切にしているテーマとして「いじめをなくす」と「情報と向き合う」に関する教材は全学年で設定されている。 ・オリジナルキャラクターの「マナビィ」が設定されている。 ・5・6年生においては,文章中の難しい言葉の意味が書かれている。(例:5年生P.82) ・学びのテーマが書かれているが,表記が直接的な表現で書かれている。(例:1年生P.20「わがままをしない」) ・1年生では,学年初めの「がっこうだいすき」「あいさつのことば」「きもちのよいせいかつ」の3つの教材は挿絵のみとなっている。(P.6～P.13)	・全ての教材において3段階の学習の振り返りが記入できるようになっている。 ・学習を振り返ろうが6回分,1年間を振り返ろうが1ページ分切り取り式で巻末についている。
光村出版	・「考えるヒント」が1演じて考えよう2こんな活動で考えることもできるよ3道徳で使う言葉4図を使って考えようの4つの視点が設定されている(1年生は4を除く3つ)。(P.3目次下段) ・各学年で巻頭に生きることをテーマにした詩が掲載してある。 ・3年生以上の最初の教材にどうとくの学び方が書かれている。(例:3年生P.11) ・「考えよう・話し合おう」では,2～3の発問が設定されている。(例:3年生P.13) ・キャラクターが導入で課題意識を持たせる発問をしている。(例:3年生P.6)	・「つなげよう」でキャラクターが自分事として考える問いかけが載っている。 ・「つなげよう」の部分に他教科との関連が表記されている。	・教材同士の関連性を持たせている。 ・1年間で学んでいくことが示してある「どうとくみちあんない」が設定されている。(P.8～P.9)	・「道徳が始まるよ」のコーナーで道徳で考えていく内容が示されている。(例:3年生P.4)低学年は19,中学年は20,高学年は22のとびらと表記され,絵を用いて示されている。 ・1年生の教科書は文字が小さく,言葉が少ない。 ・挿絵がシンプル。 ・QRコードで資料が検索できる。 ・音声読み上げ用のQRコードが教材ごとについている。 ・大きく鮮明でインパクトがある写真が使用されている。 5・6年生は切り取り式の一行感想が巻末についている。1～4年生はシール式のふりかえりになっている。 ・巻末の付録には,3年以上に学びの道具箱があり,対話の仕方が示されている。(例:3年生P.172～P.173) ・議論するために教材ごとに必ず考えよう・話し合おうの流れが示されている。 ・「みんなで気持ちよく話し合うためのコツ」が3つずつ発達段階に応じた話し合い方が説明されている。(P.6～P.7)

日本文教出版	・見開きで道徳のとびらがある。命、自然、みんな、周りの人、自分という分類わけがしてある。 ・各学年に応じて学び方が示してある。1気付く2考える・深める3見つめる、生かす。(P.4-P.5) ・話し合ってみよう、動いてみよう、書いてみようという方法が示されている。(P.4-P.5) ・キャラクターが導入で課題意識を持たせる発問をしている。(例:3年生 P.10) ・大きく2つの発問が示されている。(考えてみよう、見つめよう、生かそう)	・「ぐっと深める」で体験的な活動を通して考えさせる設定になっている。 ・「心のベンチ」という学習したことについてほかの教科や体験等とつなげて考えを広げるページが5つある。 ・3～6年生は教材がSDGsのどんな目標と関連しているか考えられるようになっている。	・内容項目に関係のある教材がどの学年も3つずつ入っている。 ・「見つけた！ここにも道徳」という写真を示し、どんな気持ちからそれができたかを考えるコーナーがある。	- オリジナルキャラクターの「ココロウ」が設定され、教材を通してどのようなことを考えたらよいかを示している。 ・QRコードで資料が検索できる。デジタルワークシートはword形式とGoogleドキュメントで選べる。 ・タブレットで読み取るとシンキングツール等の資料を見たり使ったりすることができる。 ・一緒に考える子供のキャラクターが4人登場し、問いかけをしている。	・道徳ノートがついていて考えをまとめたり、振り返ったりすることができる。学習態度が選択できる。 - 巻頭の道徳の学び方の中にある「はなしあってみよう」「うごいてみよう」「かいてみよう」について動画を見ることができる。
光文書院	・全ての学年において、巻頭見開きで4つの言葉を用いていろいろな見方で考えることができるように示している。 ・「道徳の時間はこんな時間です」のコーナーでは、授業の中での学び方「問いを見つけよう」「考えよう」「まとめよう・ふりかえろう」が示されている。(P.4) ・授業が終わっても生活の中でも考えたり、授業に戻ったりする学び方が示されている。 ・それぞれの教材に考えるための発問が2つ、まとめる発問1つ、広げるための発問が1つある。(例3年生:P.13) ・キャラクターが導入で課題意識を持たせる発問をしている。(例:3年生 P.10) ・発問が気持ちを問う発問ではなく「なぜ～したのか」「何が変わったのか」等課題意識をもって考えさせる発問になっている。	・「みんなでやってみよう」がコラム的についていて、体験的な学習が構成されている。また実際の生活につながるよう設定されている。 ・「いろいろなやり方で考えてみよう」と題し、各学年の発達段階に応じて考えるための絵や図が示されている。 ・教材の最後に、二つの「かんがえよう」の問いが設置されており、ねらいに迫る視点での問いかけと多角的・多面的に考えられる問いかけについて考えることを通して、主体的に考えを深めていくことができる。 ・教材の最後にある「ひろげよう」の問いかけが、学んだことを他教科や学校生活や家庭生活等へとつないでいくためのポイントを示している。(例5年生:P.97)	・全学年において現代の課題に即した情報モラルに関する教材が必ず1つある。6年生は2つ。 ・内容項目とは別に「へこんでも立ち直る」ために考えたいテーマが示されている。 ・35個の教材とは別に付録として5つ話がついている。 ・「ゆたかな心」のコーナーで、「子供がなりたい自分」をイメージできるように、考えるきっかけを提示している。また、内容項目を子供が自ら目的意識をもつことができるように、わかりやすい言葉に置き換えて示している。(P.2)	・QRコードがあり、インターネットで学習に役立つ情報をみることができる。また、実際の人物からのメッセージ動画もある。 ・表紙の絵が裏表紙の絵とつながり1つのテーマになっている。 ・その話を想像しやすく親しめるように、教材によっては漫画で示されている。 ・UD字体が使われている。 ・巻末に「ことばのたからもの」というページを設け、次の学年や中学校に進級する子供たちへのエールとして相田みつをさんの書が掲載されている。	「まとめよう・ふりかえろう」では、ノートや学びの足あとの使い方が示されている。(P.9) 巻末には、切り取り式の学びの足あとがついている。 ・「話し合ってみよう」で対話のツールの例が示されている。(P.8) ・ことばのたからものとして知ってほしい言葉が紹介されている。同時に1年間の自分を振り返ることができるようになっている。(例:3年生P.178)

学研	・発問は特に考えさせたい発問を1問設定している。 ・巻頭に各学年ごとに写真と詩が掲載してある。 ・3年生以上の「どうとくの学習がはじまるよ」では、考えを深めるステップ1 見つけよう2考えよう3生かそうが示されている。(P.8-P.9) ・考えるポイントのマークがあり、児童が自分の考えを深めるきっかけになっている。(例:3年生P.64)	・道徳的価値を深めたり、内容を体験的に理解するための心のパスポートが設定されている。 ・「深めよう」では、その教材の学び方を提案し、考えが持てるようにしている。(例:3年生P.53)	・いのちの教育を土台にし、いじめ防止に取り組む教材が設定されている。 ・「つながるわたし・広がるわたし」では、現代的な課題とその学年で学ぶテーマを関連させて示している。 ・各教材にSDGsマークがついている。 ・「いのち」「多様性」「キャリア」の3つのテーマでユニットが組まれており、次の教材へつなぐ声掛けをキャラクターがしている。	・巻頭の写真と言葉で学びの意欲を高める工夫をしている。 ・内容を深めるための、デジタルコンテンツ(写真・クイズ・動画)等がQRコードで見ることができる。 ・オリジナルキャラクターの「明日香」「未来」が設定されている。	・心のパスポートの中に役割演技で考える場面がある。(例:5年生P.63)
-----------	---	--	---	--	--

令和6年度使用小学校教科用図書 調査研究 報告書 (調査員)

教科 外国語科 代表者名 今朝丸 由香

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
東書	・単元の冒頭に学習目標を提示し、目指す姿を示している。 ・CAN-DOリストが別冊に5・6年生の2年間分が一緒に単元ごとに示されている。 ・三人称:5年2単元。 過去形:6年2単元。	・単元の冒頭に学習目標、学習段階ごとのめあてを提示し、見通しがもてるようになっている。また、QRコードで目指す姿が見られるようになっている。また、各単元での学びをStarting Out/Your turn/ Enjoy Communication/ Over the Horizonという段階で示し、定式化している。 ・各単元末の活動で、「Befor:気を付けたいこと」や「After:ふり返り」が書けるようになっている。さらに、各学習段階ごと(2時間毎)に、めあてに対する活動のふり返りを行うことができる欄を示している。また、2～3単元を1つのまとまりとして、学んだことを活用する「Check Your Steps」があり、伝えたいことと伝えられたかどうかという振り返りが書けるようになっている。 ・二次元コードを活用し、チャンツや歌、表現、ワークシート等を自主的に確認したり、練習したりすることができるよう設定している。	・5年 96ページ、8単元と3つのまとめ。 ・6年 96ページ、8単元と3つのまとめ。 ・各単元の最後に「Over the Horizon」のページがあり、異文化情報に触れ、世界を広げられるようにしている。 5年 巻頭:世界の挨拶 1ページ8単元 2ページずつ 6年 巻頭:首都の様子、世界遺産、国旗 2ページ 8単元 2ページずつ。	・5年巻末カード:アルファベット、絵カード(4線なし) ・6年巻末カード:絵カード(4線なし)。 ・別冊1冊 48ページ 会話表現、世界地図や日本地図、有名な食べ物や場所等を示している。 ・4線つきのアルファベット表(イラストあり)(別冊)。	・やり取りを続ける表現例や、会話や紹介で使える質問の表現例、単語例等を示している。 ・内容のまとまりごとに年3回「Check Your Steps」があり、定着を図るためにそれまでの学びを活用して発表する場が設定されている。 ・6年Unit1「This is me!」において、「好きなものや宝物をなどについて紹介しよう。」という単元のめあてを設定している。

	・「聞く→話す(読む)→書く」という段階的な学習活動が設定されており、慣れ親しんだ後に声に出しながら書くことができるようになっている。 ・内容のまとまりごとに年3回「Check Your Steps」があり、定着を図るためにそれまでの学びを活用して発表する場が設定されている。 ・巻頭に、アルファベット(大文字・小文字)、名前や単語、文の書き方を示している。 ・毎単元末に「Sound and Letters」があり、アルファベットやフォニックスなどの知識を身に付けたり、文を読んだりするためのページが設定されている。		・他教科との主な関連をマークで示している。 5年Unit1 国語 Unit2道徳 Unit3国語 Unit4道徳 Unit5社会 Unit6家庭科、算数 Unit7社会 Unit8道徳。 6年Unit1道徳 Unit2家庭科 Unit3道徳 Unit4社会 Unit5社会 Unit6理科 Unit7道徳 Unit8道徳。	・ローマ字表(4線なし)(別冊)。 ・単元のゴールの活動場面をイラストや写真で示すとともに、表現例を4線付きで示している。 ・書くことの支援のため、4線の第2線を点線で示したり、筆順を示しながらなぞることのできる破線フォントを使用している。	・別冊に「英語を使って会話しよう!」があり、会話を始める時や続けるとき、終える時などに活用できる表現が紹介されている。 ・毎単元末にある「Over the Horizon」で「物語探検」として、絵と文字を見ながら物語を読むページが設定されている。
	・単元の冒頭に学習目標を提示し、目指す姿を示している。 ・CAN-DOリストが教科書巻末に単元・技能ごとに示されている。	・単元の冒頭に学習目標、学習段階ごとのめあてを提示し、見通しがもてるようになっている。 ・2～3単元を1つのまとまりとして、学んだことを活用する「Let's Check」があり、伝えたいことと伝えられたかどうかという振り返りが書けるようになっている。 巻末に、CAN-DOチェックがあり、学習をふり返って記録を残すページを設定している。	・5年 128ページ、8単元と3つのまとめ。 ・6年 130ページ、8単元と3つのまとめ。	・5年巻末カード:アルファベット、絵カード(4線あり) ・6年巻末カード:アルファベット、人物絵カード(4線あり)。 ・各学年別冊あり。 5年:Word Book 33ページ 6年:Word Book 33ページ	・内容のまとまりごとに年3回「Let's Check」があり、定着を図るためにペーパーテストとそれまでの学びを活用して話す場が設定されている。

開隆堂

・三人称:5年2単元 過去形:6年2単元	・二次元コードを活用し、チャンツや歌、表現等を自主的に確認したり、練習したりすることができるよう設定している。	・異文化情報に触れ、世界を広げられるようにしている。各単元の最後に「Around the World」のページが1ページある。6年は、SDGsにも毎単元触れている。5年「Our World」:世界の挨拶と文字2ページ、いろいろな標識2ページ、いろいろなスポーツ2ページ。 6年「Our World」:世界の朝ご飯2ページ、世界遺産2ページ、世界で活躍している人2ページ。	・4線つきのアルファベット表(イラストあり)(教科書)。	・6年Unit1「This is me.自分について発表しよう。」において、「出身地の言い方を知り、好きなことなどを伝え合おう。」という単元のめあてを設定している。
・「Let's Listen and Read」で文を指で追いながら聞く活動を設定している。「Let's Play」で表現や語の定着が図れるように、ゲームを設定している。		・他教科との主な関連をマークで示している。 5年Unit1道徳、特活、総合、キャリア Unit2社会、理科、特活 Unit3道徳、総合、特活 Unit4理科、特活、音楽、体育、図工 Unit5社会、道徳、総合、情報、キャリア Unit6社会、家庭科、総合 Unit7キャリア、社会、総合 Unit8国語、社会、道徳、総合、特活、キャリア。 6年Unit1国語、道徳、特活 Unit2国語、社会、道徳、特活、総合 Unit3体育、道徳、特活、キャリア Unit4社会、理科 Unit5社会 Unit6国語、道徳、総合、特活、キャリア Unit7キャリア、社会、道徳、総合、特活 Unit8道徳、特活、総合、キャリア。	・ローマ字表(4線なし)	・巻頭に「授業で使える20の表現」があり、年間を通して意識すべき話し方や聞き方が示されている。
・内容のまとまりごとに年3回「Let's Check」があり、定着を図るためにペーパーテストとそれまでの学びを活用して話す場が設定されている。			・単元のゴールの活動場面をイラストで示すとともに、表現例を基線のみで示している。	・毎単元末に「Story Time」があり、絵と文字を見ながら物語を読むページが設定されている。
・教科書末に「Sound and Letters」、毎単元末にも「Letter Box」という場所があり、書く活動ご設定されている。				

三省堂

・単元の冒頭に学習目標を提示し、目指す姿を示している。 ・CAN-DOリストが別冊に5・6年生の2年間分を一緒に単元・技能ごとに示されている。また、教科書巻末に目指す児童の姿(振り返り)が示されている。 ・三人称:5年3単元。 過去形:6年3単元。 ・各単元ごとの「Let's Read & Write」,「Let's Try」でなぞったり書いたりする活動が設定されている。年3回の「Try」で、道案内や買い物など特有の場面で使われる表現を学ぶページを設定している。 ・内容のまとまりごとに年3回「Jump」があり、定着を図るためにそれまでの学びを活用して話す場が設定されている。 ・内容のまとまりごとに年3回の「ABC Fun Box」があり、アルファベットの形や音、歌や言葉への興味関心を高めるコラム等の読んだり書いたりする活動が設定されている。	・単元の冒頭に学習目標、学習段階ごとのめあてを提示し、見通しがもてるようになっている。また、QRコードで目指す姿が見られるようになっている。2～3単元を1つのまとまりとして、HOP/STEP/JUMPと学習の段階を示し、定式化している。 ・2～3単元を1つのまとまりとして、単元を貫くゴールを設定している。また、HOP/STEP/JUMPと学習の段階を示し、まとまりの始めと終わりで自分の伝えたいことと伝えられたかという振り返りとを書き込むようになっている。 ・二次元コードを活用し、チャンツや歌、表現、ワークシート等を自主的に確認したり、練習したりすることができるよう設定している。	・5年 112ページ、7単元と3つのまとめ。 ・6年 112ページ、7単元3つのまとめ。 ・5年 巻頭:世界の挨拶 2ページ・6年 巻頭:世界のまちかど 2ページ 2、3単元ごとに、Hello, World!, 5年 世界のスポーツ2ページ、日本大発見2ページ、 6年 世界のまつり2ページ、世界の小学校2ページ、世界のいろいろな仕事2ページStory Time世界のお話3ページがあり、世界の文化に出会うページを設定している。	・5年 巻末カード:アルファベット(4線なし)、単元ごとの絵カードカード(4線なし) 6年 巻末カード:ユニットごとの絵カード(4線なし)。 ・別冊1冊 49ページ 単語は4線に書かれている。Unitごとに基本表現がまとめて掲載されている。 ・アルファベット表(別冊)(4線あり)イラストなし。 ・ローマ字表(4線なし)。 ・単元のゴールの活動場面を写真で示すとともに、表現例を基線のみで示している。	・内容のまとまりごとに年3回「Jump」があり、定着を図るためにそれまでの学びを活用して話す場が設定されている。また、2～3単元を1つのまとまりとして、単元を貫くゴールを設定している。 6年Unit1「We are from India.」において、「友だちとの共通点をさがして伝え合おう。」という単元のめあてを設定している。 ・別冊に「教室で使う英語」「会話を続けるくふう」があり、場面や目的ごとに活用できる表現が紹介されている。 ・年3回の「Story Time」があり、絵と文字を見ながら物語を読むページが設定されている。
---	---	---	---	--

教育出版	・単元の冒頭に学習目標を提示し、目指す姿を示している。 ・表紙の裏に1年間の学びが見通せるロードマップはあるが、CAN-DOリストは示されていない。 ・三人称:5年2単元。 過去形:6年2単元。 ・各単元ごとの「Let's write」「Final Activity」でなぞったり書いたりする活動が設定されている。 ・巻末に、アルファベット(大文字・小文字)、名前や単語、文の書き方を示している。 ・毎単元末に「Sound & Letters」と「Review」があり、アルファベットの形や音に慣れ親しみながら読んだり書いたりする活動が設定されている。	・5年 116ページ, 9単元。 ・6年 108ページ, 8単元。 ・Let's Look at the World 5年 世界のいろいろな学校を見てみよう1ページ, Welcome to Japan日本の名所名物マップ4ページ, アメリカの手話1ページ 6年 いろいろな外来語1ページ, 動物1ページ, Dream World Tour 世界の名所名物マップ4ページ, など世界の文化に触れたり, 日本の伝統行事を扱ったりしている。	・5年 巻末シール, 巻末カード:アルファベット(4線あり), ユニットごとの絵カード(4線なし)6年 ユニットごとの絵カード(4線なし)。 ・別冊なし 教科書巻末にMy Word Bank あり(4線あり) ・4線つきのアルファベット表(イラストなし)(教科書)。 ・ローマ字表(4線あり)。 ・単元のゴールの活動場面をイラストや写真で示すとともに, 表現例を4線付きで示している。	・6年Unit1「Let's be friends.」において, 「友達のことを知って仲良くなろう。」という単元のめあてを設定している。 ・巻頭に「Classroom English」があり, 年間を通して活用できる表現が示されている。 ・年3回の「Read and Act」があり, 絵と文字を見ながら物語を読むページが設定されている。	・6年Unit1「Let's be friends.」において, 「友達のことを知って仲良くなろう。」という単元のめあてを設定している。 ・巻頭に「Classroom English」があり, 年間を通して活用できる表現が示されている。 ・年3回の「Read and Act」があり, 絵と文字を見ながら物語を読むページが設定されている。
	・単元の冒頭にGoalとして, 各単元の学習目標, 学習段階ごとのめあてを提示している。各単元での学びをHOP/STEP/JUMPという段階で示し見通しがもてるよう, 定式化している。	・5年 110ページ, 8単元3まとめ。	・5年巻末カード:アルファベット, 単元1~3の絵カード(4線あり) 別冊:6年巻末カードなし。	・やり取りの際に使える反応例を示している。	・やり取りの際に使える反応例を示している。

光村図書	・毎単元末に「Jump」があり、その単元での学びを5領域を振り返る場が設定されている。各学年の巻末に1年間の学びの記録の頁を設定している。(5年P110, 6年P110) ・二次元コードを活用し、チャンツや歌、表現等を自主的に確認したり、練習したりすることができるよう設定している。	・6年 110ページ, 8単元3まとめ。 ・5年 巻頭世界の挨拶2ページ世界12か国の小学生の映像をLe'ts watch and thinkのコーナーで各単元の内容に関連したものを毎単元紹介している。(半ページ程度)「世界の友達」6ページ ・国語科との主な関連をマークで示している。	・各学年別冊あり 5年: Picture Dictionary 25ページ。 6年: Picture Dictionary 25ページ。 ・4線なしのアルファベット表(イラストあり)(教科書)。 ・ローマ字表(4線なし)。 ・単元のゴールの活動場面をイラストや写真で示すとともに、表現例を4線なしで示している。	・内容のまとまりごとに年3回「まとめ」があり、定着を図るためにそれまでの学びを活用して話す場が設定されている。 ・6年Unit1「This is me.」において、「自分の興味・関心を伝えるために、内容を整理して自己紹介することができる。」という単元のめあてを設定している。 ・巻頭に「Let's start」があり、年間を通して意識すべき話し方や聞き方が示されている。 別冊に「Response 心が通う受け答え」があり、よりよいやり取りをするために使える表現が紹介されている。 ・年1-2回の「英語の物語」では、絵と文字を見ながら物語を読むページが設定されている。	・内容のまとまりごとに年3回「まとめ」があり、定着を図るためにそれまでの学びを活用して話す場が設定されている。 ・6年Unit1「This is me.」において、「自分の興味・関心を伝えるために、内容を整理して自己紹介することができる。」という単元のめあてを設定している。 ・巻頭に「Let's start」があり、年間を通して意識すべき話し方や聞き方が示されている。 別冊に「Response 心が通う受け答え」があり、よりよいやり取りをするために使える表現が紹介されている。 ・年1-2回の「英語の物語」では、絵と文字を見ながら物語を読むページが設定されている。
啓林館	・単元の冒頭に学習目標を提示し、目指す姿を示している。 ・CAN-DOリストが各学年の教科書巻末に単元・技能ごとに示されている。 ・三人称: 5年2単元 6年1単元。 過去形: 6年2単元。	・単元の冒頭にGoalとして、各単元の学習目標と学習段階ごとのめあてを提示している。 ・毎単元末に「Look Back」があり、その単元での学びを振り返る場が設定されている。 ・二次元コードを活用し、チャンツや歌、表現等を自主的に確認したり、練習したりすることができるよう設定している。	・5年 132ページ, 8単元3まとめ。 ・6年 132ページ, 8単元3まとめ。 ・各単元に、「around the World」, 「Did you know?」で、単元の内容に関連した異文化理解のページを設定している。(各半ページ程度) 5年 「Did you know?」世界のみんなの1日は? 2ページ, 世界にはどんな問題があるの? 2ページ, 世界遺産1ページ。6年 「Did you know?」生活をよくするための工夫2ページ, 伝えよう日本の魅力1ページ。	・5年巻末カード: ユニットごとの絵カード 6年巻末カード: ユニットごとの絵カード ・別冊なし。教科書巻末にWord Listあり(4線なし)。 ・4線つきのアルファベット表(イラストあり)(教科書)。	・内容のまとまりごとに年3回「Review」があり、定着を図るためにそれまでの学びを活用して話す場が設定されている。 ・6年Unit1「I'm from Tokyo, Japan.」において、「外国の人に、自分のことを伝えることができるようになろう。」という単元のめあてを設定している。

・「聞く→話す(読む)→書く」という段階的な学習活動が設定されており、慣れ親しんだ後に声に出しながら書くことができるようになっている。 ・内容のまとまりごとに年3回「Review」があり、定着を図るためにそれまでの学びを活用して話す場が設定されている。			・ローマ字表(4線なし)。 ・単元のゴールの活動場面をイラストや写真で示すとともに、表現例を基線のみで示している。	・巻頭に「コミュニケーションに大切なこと」があり、年間を通して意識すべき話し方や聞き方が示されている。また、巻末に「会話を楽しむフレーズ集」があり、会話を続けたり、反応したりするための表現が示されている。 ・年1回の「Story」、5年で設定されている年3回の「Let's Read」では、絵と文字を見ながら物語を読むページが設定されている。
--	--	--	---	---

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
東京書籍	学習課題の示し方 第3・4学年 ○項目ごとに「学習の課題」として質問形式の課題提示 ○動機付けの後に提示 5・6年 ○項目ごとに「学習の課題」として質問形式の課題提示 ○動機付けの後に提示	3・4年 ステップ1 気付く・見つける ステップ2 調べる・解決する ステップ3 深める・伝える ステップ4 まとめる・生かす資料 5・6年 ステップ1 気付く・見つける ステップ2 調べる・解決する ステップ3 深める・伝える ステップ4 まとめる・生かす資料 すべての学年の学習展開がステップ1-4＋資料による学習展開・教科書に直接記述していく	3年生 1章 けんこうな生活(P.6) 1 けんこうというたからもの(P.7-12) 2 けんこうによい1日の生活(P.13-16) 3 体のせいけつとけんこう(P.17-20) 4 けんこうによいかんきょう(P.21-24) ※ 資料5項目(P.12,16,20,24,25) 4年生 2章 体の成長とわたし(P.26) 1 育ちゆくわたしたちの体(P.27-32) 2 思春期にあらわれる変化(P.33-P.38) 3 よりよく成長するための生活(P.39-42) ※ 資料7項目(P.32,38,38,42,43,44,45) 5年生 1章 心の健康(P.4) 1 心の発達(P5-8) 2 心と体のつながり(P.9-12) 3 不安やなやみがあるとき(P.13-17) 2章 けがの防止(P.20) 1 事故やけがの原因と防止(P.21-26) 2 交通事故の防止(P.27-30) 3 犯罪被害の防止(P.31-34) 自然災害によるけがの防止(P.36-37) 4 けがの手当(P.39-42) ※ 資料14項目(P.8,12,17,18,18,26,30,34,35,38,42,42,43) 6年生 3章 病気の予防(P.44) 1 病気の起こり方(P.45-48) 2 感染症の予防(P.49-52) 3 生活習慣病の予防(P.55-60) 4 喫煙の害と健康(P.61-64) 5 飲酒の害と健康(P.65-68) 6 薬物乱用の害と健康(P.69-72) 7 地域の保健活動(P.73-76) ※ 資料14項目(P.48,52,53,53,53,54,54,60,64,64,68,72,76,77)	4年 体の成長とわたし(思春期にあらわれる変化) ○体つきのちがいにについて ・男子と女子の体つきの違いを,1年生・6年生・大人の男女が水着を着ている写真で比較している。女性はお上着がランニングタイプで下がハーフパンツタイプの水着。男性は上は裸,下がハーフパンツタイプの水着。 ・体の変化の時期にいつ気付いたかについて,キャラクター(担任の先生の先生,保健室の先生,りんさんのお母さん,けんたさんのお父さん)にインタビューしている。担任の先生は,6年生の頃に声変わった話。保健室の先生は,中学生になったころ,家族から「大人っぽくなったね。」と言われた話。りんさんのお母さんは,5年生ぐらいから急に身長が伸びて,胸がふくらみ始めた話。けんたさんのお父さんは,高校生になってひげが生えてきておどろいた話。 ○初経と精通について ・女子と男子の体の中で起こる変化の説明を,女子と男子の裸のイラストと体の内部のイラストで説明している。男子の裸のイラストでは男性器も描かれている。 ・初経や精通が起こったときの体験談等は書かれていない。 体の成長とわたし(発展) ○性の多様性 ・「性と自分らしさ」というタイトルで,人には体の性以外にも,いろいろな性の「ものさし」(気持ちや考え方)があることを説明している。 ・自分らしさを,「体の性」「心の性」「好きになる性」「表現したい性」の四つの視点で捉え,イラストで表現している。 5年 けがの防止 (けがの手当て) ○自分でできる手当ての仕方(実習) ・けがの種類(4種類)ごとに基本の手当「清潔にする→圧迫する」「圧迫する→(冷やす)」「冷やす」を示し,その下に具体的な手当の手順を説明している。	第3・4学年 「けんこうな生活」 ○ 自分の考えを書く活動(21) ○ 話し合う活動(4) 「体の成長とわたし」 ○ 自分の考えを書く活動(21) ○ 話し合う活動(0) 第5・6学年 「心の健康」 ○ 自分の考えを書く活動(12) ○ 話し合う活動(0) 「けがの防止」 ○ 自分の考えを書く活動(18) ○ 話し合う活動(0) 「病気の予防」 ○ 自分の考えを書く活動(27) ○ 話し合う活動(2)

				6年 病気の予防（生活習慣病の予防1） ○がんの取り扱いについて ・主な生活習慣病の1つとして紹介 ・日本人の死亡原因の内訳の円グラフ（厚生労働省2020年　がん27.6%第1位） ・「がんについて知ろう」という発展資料（1/2ページ） ・がん細胞ができるイラスト、大腸がんの写真、がんを防ぐための12か条 ・がんの原因は 「多くのがんは、年齢とともに発生する確率が高くなります。-などの生活習慣と関わりが深く良い生活習慣を続けることにyって『なりにくする（予防する）』ことができます。」 「生活習慣以外にも病原体の感染、体質などさまざまな玄以があります。 ・がんは治らないの？ 「がんは早く発見して定説な治療をすれば多くの人が健康な生活にもどることができます。がん検診の対象年齢になったら、定期的に検診を受けることが大切です。」	
大日本図書	学習課題の示し方 3・4年 ○項目ごとに「ここで学ぶこと」として質問形式の課題提示 ○動機付けの後に提示 5・6年 ○項目ごとに「ここで学ぶこと」として質問形式の課題提示 ○動機付けの後に提示	3年 つかもう（見つける） 考えよう話し合おう（考えるやってみる　まとめる） 活かそう（広げる深める）	3年生 けんこうな生活(P.8-9) 1　けんこうってなんだろう(P.10-11) 2　1日の生活のしかた(P.12-15) 3　体のせいけつ(P.16-17) 4　身の回りのかんきょう(P.18-19) ※　資料5項目(P.20,21,22)	4年 体の発育・発達(思春期にあられる体の変化) ○体つきのちがいについて ・男子と女子の体つきの違いを、黒のランニングシャツと黒のタイツを着ている1年生の男女と大人の男女の写真で比較している。 ・体の変化の時期にいつ気付いたかについて、キャラクター(担任の男性の先生と保健室の先生)にインタビューしている。担任の先生は、中学生になってから急に身長が伸びて筋肉もつき、服のサイズがすぐに小さくなった経験を話している。保健室の先生は、小学5年生くらいからむねがふっくらしてきて下着を用意した経験を話している。	第3・4学年 「ほけんの学習が始まります」 ○　自分の考えを書く活動(1) ○　話し合う活動(0) 「けんこうな生活」 ○　自分の考えを書く活動(9) ○　話し合う活動(5) 「体の発育・発達」 ○　自分の考えを書く活動(10) ○　話し合う活動(2) 「5・6年の生活に向けて」 ○　自分の考えを書く活動(1) ○　話し合う活動(0)
		4年 つかもう（見つける） 調べよう（考えるやってみる） 考えよう話し合おう（考えるやってみる） 活かそう（広げる深める）	4年生 体の発育・発達(P.24-25) 1　年れいとともに変化する体(P.26-29) 2　思春期にあられる体の変化(P.30-31) 3　思春期にあられる体の中の変化(P.32-35) 4　よりよく成長するための生活(P.36-37) ※　資料8項目(P.38,39,40)	体の発育・発達(思春期にあられる体の変化) ○初経と精通について ・女子と男子の体の中で起こる変化の説明を、女子と男子の裸のイラストと体の内部のイラストで説明している。男子の裸のイラストでは陰茎も描かれている。 ・初経が起こったときのことは、キャラクターにインタビューする形で伝えている。内容は、キャラクター（小5女子）が、初経を迎えて家の人に話して喜んでもらったこと、大人の体に近づいていると実感したこと。 ・精通が起こったときのことは、キャラクターにインタビューする形で伝えている。内容は、キャラクター（小6男子）が、朝起きてパンツがぬれていたためあわててパンツを洗濯機に入れ、その後、保険の学習を思い出して安心したこと。	第5・6学年 「夢や目標をかなえるために」 ○　自分の考えを書く活動(1) ○　話し合う活動(0) 「心の健康」 ○自分の考えを書く活動(7) ○話し合う活動(3) 「けがの防止」 ○　自分の考えを書く活動(18) ○　話し合う活動(4) 「病気の予防」 ○　自分の考えを書く活動(21) ○　話し合う活動(2)
		5年 つかもう（見つける） 考えよう（考えるやってみる） 調べよう（考えるやってみるまとめる） 活かそう（広げる深める）	5年生 心の健康(P8.-9) 1　心の発達(P.10-11) 2　心と体のつながり(P.12-13) 3　不安やなやみがあるとき(P.14-15) けがの防止(P.20-21) 1　けがや事故の原因(P.22-23) 2　学校や地域で起こるけがの防止(P.24-25) 3　交通事故の防止(P.26-27) 4　犯罪被害の防止(P.30-31) 5　けがの手当(P.32-33) ※　資料7項目(P.16,17,18)	体の発育・発達(発展) ○性の多様性 ・体の発育・発達の仕方や時期に個人差があるように、「性」も人によって違うことをキャラクターが説明している。好きになる相手が異性の倍も同性の場合もあって、「好き」の形も様々であることを伝えている。 ・さまざまな性を表す言葉として「LG BT」という言葉が紹介されている。 ・相談窓口として、「24時間子どもSO Sダイヤル」と「チャイルドライン」が紹介されている。	「中学校生活に向けて」 ○自分の考えを書く活動(2) ○話し合う活動(0)

		6年 つかもう(見つける) 考えよう(考えるやってみる) 調べよう(考えるやってみるまとめる) 活かそう(広げる深める) 全学年の「1時間の学習のおもな流れ」が,見つける→考えるやってみる→まとめる→広げる深めるで展開され教科書に直接○付けや記述ができる	6年生 病気の予防(P.40-41) 1 病気の起こり方(P.42-43) 2 感染症の予防(P.44-47) 3 生活習慣病の予防1(P.50-51) 4 生活習慣病の予防2(P.52-53) 5 喫煙の害と健康(P.54-55) 6 飲酒の害と健康(P.56-57) 7 薬物乱用の害と健康(P.58-59) 8 地域で行われている保健活動(P.60-61) ※ 資料6項目(P.62,63,64)	5年 けがの防止 (けがの手当て) ○自分でできる手当ての仕方(実習) ・「傷口を清潔にする」「傷口をおさえて圧迫する」「けがしたところを冷やす」の3つを手当の基本として示し,6種類のけがの手当について種類ごとに手順を説明している。その際,「清潔」「圧迫」「冷やす」をキーワードにしてどれを行っているか示している。	
				6年 病気の予防 (生活習慣病の予防1) ○がんの取り扱いについて ・主な生活習慣病の1つとして紹介 ・日本人の死亡原因の割合の円グラフ(厚生労働省2021年 がん28%第1位) 「がんの予防」という発展資料(1/2ページ) -資料の表記- ・がんという病気「日本人では死亡原因の1位で,約2人に1人が一生の間にかんになっています。」 ・がんと生活習慣病「がんは生活習慣と大きな関わりがあります。-などの生活を続けていいると,異常な細胞が増えるきっかけとなり,がんになる可能性が高まります。」 ・がん検診「資料方が進歩し,がんは治らない病気ではなくなりつつあります。がん健診など早めの発見,適切な治療により健康な生活に戻ることができるようになってきています。」	
大修館書店	学習課題の示し方 第3・4学年 ・項目ごとに「きょうの課題」として質問形式の課題提示 ・動機付けの後に提示 第5・6学年 ・項目ごとに「きょうの課題」として質問形式の課題提示 ・動機付けの後に提示	3・4年 ステップ1 課題をつかもう→きょうの課題 ステップ2 話し合おう・考えよう・調べよう ステップ3 まとめ(生かそう・伝えよう) 5・6年 ステップ1 課題をつかもう→きょうの課題 ステップ2 話し合おう・考えよう・調べよう・やってみよう ステップ3 まとめ(生かそう・伝えよう) すべての学年でステップ1・2・3学習が展開されており、教科書に直接記述できる。	3年生 1 けんこうな生活(P.9) 1 大切なけんこう(P.10-13) 2 1日の生活の仕方とけんこう(P.14-17) 3 体のせいけつとけんこう(P.18-19) 4 身の回りのかんきょうとけんこう(P.20-21) ※ 資料8項目(P.16.16.17.17.22.22.23.23) 4年生 2 体の成長(P.25) 1 育ちゆく体の変化(P.26-29) 2 思春期の体の変化1 体にあられるいろいろな変化(P.30-31) 3 思春期の体の変化2 体の働きの変化(P.32-34) 4 よりよい成長のために(P.38-41) ※ 資料8項目(P.35,35,36,36,37,42,43,43,) ※ 資料3項目(P.45,46,47) 5年生 1 心の健康(P.7) 1 心の発達(P.8-11) 2 心と体の関わり(P.12-13) 3 不安やなやみへの対処1 呼吸法・体ほぐしの運動(P.16-17) 4 不安やなやみへの対処2 さまざまな対処の方法(P.18-19) ※ 資料5項目(P.14,14,15,20,21) 2 けがの防止(P.23) 1 事故やけがの起こり方(P.24-27) 2 交通事故の防止(P.28-29) 3 学校や地域でのけがの防止(P.32-33) 犯罪被害の防止(P.34-35) 4 けがの手当(P.38-39) ※ 資料10項目(P.30,30,31,31,36,36,37,40,40,41)	4年 体の成長(思春期の体の変化1) ○体つきのちがいがいについて ・男子と女子の体つきの違いを,体操服を着たイラストで比較している。 ・体の変化にいつ気付いたのかについて,キャラクター(担任の男性の先生)が中学1年生の頃に声が低くなった経験とキャラクター(保健室の先生)が小学5年生の頃に急に身長が伸びたりむねも膨らみ始めたたりしたという経験を伝えている。 体の成長(思春期の体の変化2) ○初経と精通について ・女子と男子の体の中で起こる変化の説明を,影絵風の外見と体の内部のイラストで説明している。影絵風のイラストでは,男子の男性器も描かれている。 ・初経が起こったときのことは,わたしからのアドバイスという形で伝えている。内容は,キャラクター(女子会社員25才)が,トイレに行ったときなどに「何か変…」と思ったら,すぐに相談しようと呼びかけている。 ・精通が起こったときのことは,わたしからのアドバイスという形で伝えている。内容は,キャラクター(男子大学生22才)が,朝起きてパンツがぬれていたらあせるけれど,大人の仲間入りだから安心してねと呼びかけている。 体の成長(発展) ○性の多様性 ・金子みすずさんの詩「私と小鳥と鈴と」を紹介し,個人差は自分らしさであることを伝えている。 ・相談窓口として,「子供の人権110番」と「よりそいホットライン」が紹介されている。 5年 けがの防止 (けがの手当て) ○自分でできる手当ての仕方(実習) ・「傷口を清潔にする」「圧迫して出血をとめる」「けがをしたところを冷やす」の3つを手当の基本として示し,5種類のけがの手当について種類ごとに手順を説明している。	第3・4学年 「けんこうな生活」 ○ 自分の考えを書く活動(11) ○ 話し合う活動(2) 「体の成長」 ○ 自分の考えを書く活動(11) ○ 話し合う活動(4) 第5・6学年 「心の健康」 ○ 自分の考えを書く活動(10) ○ 話し合う活動(0) 「けがの防止」 ○ 自分の考えを書く活動(15) ○ 話し合う活動(1) 「病気の予防」 ○ 自分の考えを書く活動(20) ○ 話し合う活動(2)

			6年生 3 病気の予防(P.45) 1 病気の起こり方(P.46-47) 2 感染症の予防(P.48-50) 3 生活習慣病の予防1(P.56-57) 4 生活習慣病の予防2(P.58-59) 5 喫煙の害(P.62-63) 6 飲酒の害(P.64-65) 7 薬物乱用の害(P.66-67) 8 地域の保健活動の取り組み(P.70-71) ※ 資料15項目(P.51,51,52,53,53,54,55,60,60,61,61,61,68,68,69) 6年生 3 病気の予防(P.45) 1 病気の起こり方(P.46-47) 2 感染症の予防(P.48-50) 3 生活習慣病の予防1(P.56-57) 4 生活習慣病の予防2(P.58-59) 5 喫煙の害(P.62-63) 6 飲酒の害(P.64-65) 7 薬物乱用の害(P.66-67) 8 地域の保健活動の取り組み(P.70-71) ※ 資料15項目(P.51,51,52,53,53,54,55,60,60,61,61,61,68,68,69)	6年 病気の予防 (生活習慣病の予防2) ○がんの取り扱いについて ・主な生活習慣病の1つとして紹介(生活習慣と関係なく起こるがん,心臓病,糖尿病もあります。と補足説明あり。) ・「がんの多くも,生活習慣と深くかかわっています。こうした生活習慣病は日本人の死亡原因の上位を占めています。」 ・日本人の死亡原因の内訳の円グラフ(厚生労働省2020年 がん28%第1位) ・「がんはどんな病気?」という資料(1/4ページ)と「がんを経験したサッカー選手」というインタビュー資料(1/2ページ) -資料の表記- ・「がんは身近な病気」 ・がんの起こり方「生活習慣などが原因で,異常な細胞ができる。」 ・「～といった健康的な生活習慣を続けることである程度防ぐことができます。」 -インタビュー資料の表記- ・「がんは発見するタイミングでその後の回復が大きく変わってくる病気です。」 ・「多くの人に支えてもらいながら治療に専念して,1287日ぶりに,プロサッカー選手として公式戦でプレーすることができました。」 ・「がんを経験して思うのは,周りの人たちは,病気になった人に心を寄せるという気持ちを忘れないで欲しいということ。」	
文教社	学習課題の示し方 第3・4学年 ○項目ごとに「学習のめあて」として質問形式の課題提示 第5・6学年 ○項目ごとに「学習のめあて」として質問形式の課題提示	3・4・5・6年 ミッション1 調べよう・考えよう ミッション2 もう1歩先の自分へ すべての学年でミッション2で教科書に直接記述でふりかえる	3年 1 毎日の生活とけんこう(P.2-3) 1 けんこうな生活とわたし(P.4-5) 2 けんこうによい1日の生活のしかた(P.6-9) 3 けんこうと体のせいけつ(P.10-13) 4 けんこうによい生活かんきょう(P.14-18) ※発展資料2項目(P.7,P.18) 4年 2 体の発育・発達(P.20-21) 1 変化していく体とわたし(P.22-24) 2 思春期の体の変化(P.25-28) 3 思春期の心の変化(P.29-30) 4 体のよりよい発育・発達と生活のしかた(P.32-35) ※発展資料2項目(P.31,P.36) 5年 1 心の健康(P.2-3) 1 心の発達(P.4-7) 2 心と体の関わり合い(P.8-11) 3 不安やなやみへの対処1(P.12-15) 4 不安やなやみへの対処2(P.16-17) 2 けがの防止(P.20-21) 1 学校生活でのけがの防止(P.22-25) 2 交通事故の防止(P.26-29) 3 地域での安全(P.32-37) 4 けがの手当(P.38-41) ※発展資料3項目(P.7,P.18,P42-44)	4年 体の発育・発達(思春期の体の変化) ○体つきのちがいにについて ・3-4歳の頃と思春期の頃の女子と男子の体つきの違いを,体操服を着ているイラストで比較している。 ○初経と精通について ・女子と男子の体の中で起こる変化の説明を,裸のイラストと体の内部のイラストで説明している。 ・初経が起こったときのことは,キャラクター(お母さん)が初経が起こったときに友達や家族が喜んでくれたり祝ってくれたりしてうれしかった経験を通して紹介している。 ・精通が起こった時のことは,キャラクター(お父さん)が精通をしてパンツが濡れていてびっくりしたけれど,ほけんの教科書を開いて安心したという経験を通して紹介している。 体の発育・発達(発展) ○性の多様性 ・服装や色など,好みや考え方は人によって違うことを伝えるために,具体的場面をイラストで表している。(得意な運動をのびせること,好みに合った服装を選べること,好きな趣味を楽しむこと,自分に合った仕事を目指すこと) ・昔と今で変わってきたジェンダーの捉えについて具体例を挙げている。(出席簿の順番が男女で別だったこと,いろいろなランドセルの色があること。) 5年 けがの防止 (けがの手当て) ○自分でできる手当ての仕方(実習) ・1簡単な手当て→2正しい状況判断のしかた→3大きなけがをしたときの対処について段階的に示されている。 ・傷の観察,傷口を清潔にする,止血する,感染が疑われる場合には消毒するという4段階に分けて説明している。その際,ポイントを示している。	第3・4学年 「毎日の生活とけんこう」 ○ 自分の考えを書く活動(6) ○ 話し合う活動(0) 「体の発育・発達」 ○ 自分の考えを書く活動(5) ○ 話し合う活動(0) 第5・6学年 「心の健康」 ○ 自分の考えを書く活動(8) ○ 話し合う活動(0) 「けがの防止」 ○ 自分の考えを書く活動(5) ○ 話し合う活動(0) 「病気の予防」 ○ 自分の考えを書く活動(9) ○ 話し合う活動(0)

			6年 3 病気の予防(P.46-47) 1 病気の起こり方(P.48-50) 2 感染症とその予防(P.52-55) 3 生活のしかたと病気1(P.57-60) 4 生活のしかたと病気2(P.61-64) 5 喫煙の害と健康(P.65-69) 6 飲酒の害と健康(P.70-73) 7 薬物乱用の害と健康(P.74-76) 8 地域の保健活動(P.78-79) ※発展資料4項目 (P.51,P.56,P.77,P.80)	6年 病気の予防 (生活習慣病の予防1) ○がんの取り扱いについて ・主な生活習慣病の1つとして紹介 ・3大死因 「がん,心臓病,脳の血管の異常による病気は,3大死因といわれ,生活習慣病です。生活習慣がよくないと,3大死因につながる重大な病気にかかりやすくなります。」 ・死亡の原因の円グラフ(厚生労働省2020年 がん27.6% 第1位)	
	学習課題の示し方 第3・4学年 ○項目ごとに「学習の課題」として質問形式の課題提示 第5・6学年 ○項目ごとに「学習の課題」として質問形式の課題提示	3・4年 1 自分の生活をふり返る(見つけよう) 2 学習の課題をつかむ 3 課題解決に向けて学習活動をする 調べよう・考えよう・話し合おう 4 学習をまとめる 5 自分の生活に生かす 学んだことを生かそう 5・6年 1 自分の生活をふり返る(見つけよう) 2 学習の課題をつかむ 3 課題解決に向けて学習活動をする 調べよう・考えよう・話し合おう・やってみよう 4 学習をまとめる 5 自分の生活に生かす 学んだことを生かそう 全学年の学習の進め方が1-5の流れで展開し、5で教科書に直接記述	3年 1章 けんこうな生活(P.7) 1 けんこうって,なに?(P.8-11) 2 けんこうな1日の生活(P.12-13) 3 体のせいけつ(P.16-17) 4 身の回りのかんきょう(P.18-19) ※発展資料6項目(P.14-15,P.20-21) 4年 2章 体の発育と健康(P.23) 1 変化していくわたしの体(P.24-27) 2 思春期の体の変化1(P.28-29) -体の外にあらわれる変化- 3 思春期の体の変化2(P.30-32) -体の中にあらわれる変化- 4 よりよい発育のために(P.34-36) ※発展資料6項目(P.33,P.37-39) 5年 1章 心の健康(P.7) 1 心の発達(P.8-11) 2 心と体のつながり(P.12-13) 3 不安やなやみなどへの対処 (P.14-15) ※発展資料4項目(P.16-19) 2章 けがの防止(P.21) 1 けがや事故の原因(P.22-23) 2 学校や地域でのけがの防止 (P.24-25) 3 交通事故の防止(P.26-27) 4 犯罪被害の防止(P.30-31) 5 けがの手当(P.32-33) ※発展資料7項目(P.28-29,P.34-35,P.36-37) 6年 3章 病気の予防1(P.39) 1 病気の起こり方(P.40-41) 2 感染症の予防(P.42-44) 3 生活習慣病の予防1(P.48-49) 4 生活習慣病の予防2(P.50-51) 3章 病気の予防2(P.53) 5 喫煙の害(P.54-55) 6 飲酒の害(P.56-57) 7 薬物乱用の害(P.58-59) 8 地域の保健活動(P.62-64) ※発展資料8項目 (P.45-47,P.52,P.60-61)	4年 体の発育と健康(思春期の体の変化1) ○体つきのちがいについて ・男子と女子の体つきの違いを,黒のランニングシャツと黒のタイツを着ている1年生の男女と大人の男女の写真(正面と横)で比較している。 ・体の変化の体験談として,3人のキャラクター(女の子,男の子A,男の子B)が経験を話している。内容は,女の子は胸が膨らんできたこと。男の子Aは中学生でわき毛が生えてきておどろいたこと。男の子Bは声変わったこと。 体の発育と健康(思春期の体の変化2) ○初経と精通について ・女子と男子の体の中で起こる変化の説明を,影絵風の外見と体の内部のイラストで説明している。影絵風のイラストでは,男子の男性器も描かれている。 ・初経が起こったときのことは,キャラクターの体験談として伝えている。内容は,キャラクター(小5女子)が,学校で初経を経験したけど,学習していたのであわてずに保健室に行くことができたこと。 ・精通が起こったときのことは,キャラクターの体験談として伝えている。内容は,キャラクター(小6男子)が,朝起きてパンツがぬれていてあせったが,「これが精通か。」と気付くことができたこと。 体の発育と健康(発展) ○性の多様性 ・「性についてのなやみ」という見出しで,自分の性のことで,ほかの人と違うと感じたり,不安なことや心配なことがあったら相談するように呼びかけている。 ・キャラクターが「女らしい,男らしいっていう話は,なんだか苦手だな。」とつぶやいている。 ・相談窓口として,「よりそいホットライン」が紹介されている。 5年 けがの防止 (けがの手当て) ○自分でできる手当ての仕方(実習) ・「傷口を清潔にする」「压迫して出血を止める」「けがをしたところを冷やす」を手当の仕方の3つの原則として示し,それぞれの原則の中に2種類ずつのけがの種類を取り上げ,それぞれの手当の手順を説明している。	第3・4学年 「けんこうな生活」 ○ 自分の考えを書く活動(8) ○ 話し合う活動(4) 「体の発育と健康」 ○ 自分の考えを書く活動(8) ○ 話し合う活動(1) 第5・6学年 「心の健康」 ○ 自分の考えを書く活動(8) ○ 話し合う活動(2) 「けがの防止」 ○ 自分の考えを書く活動(10) ○ 話し合う活動(3) 「病気の予防」 ○ 自分の考えを書く活動(18) ○ 話し合う活動(6)

学 研	学習課題の示し方 第3・4学年 ○項目ごとに「学習の課題」として質問形式の課題提示 第5・6学年 ○項目ごとに「学習の課題」として質問形式の課題提示	3・4年 1 楽しみながらこの1時間の学習にかかわる課題をつかもう。 2 この1時間の学習の課題を確認しよう。 3 くらべたり、確かめたり、調べたりして、課題の解決に取り組もう 4 話し合ったり、説明したりして、課題の解決に取り組もう 5 この1時間で学習したことを活用して、課題を解決しよう 5・6年 1 楽しみながらこの1時間の学習にかかわる課題をつかもう。 2 この1時間の学習の課題を確認しよう。 3 ふり返ったり、読み取ったり、調べたりして、課題の解決に取り組もう 4 話し合ったり、説明したりして、課題の解決に取り組もう 5 この1時間で学習したことを活用して、課題を解決しよう すべての学年で導入・展開・まとめの学習場面で教科書に直接記述することができる	3年 1 健康な生活(P.7) 1 かけがえのない健康(P.8-11) 2 1日の生活のしかた(P.12-15) 3 体の清けつ(P.16-19) 4 身の回りのかんきょう(P.20-23) ※発展資料3項目(P24-25) 4年 2 体の発育・健康(P.27) 1 変化してきたわたしの体(P.28-31) 2 大人に近づく体(P.32-35) 3 体の中で起こる変化(P.36-39) 4 よりよい発育・発達のために(P.40-43) ※発展資料項目(P.44-45) 5年 1 心の健康(P.7) 1 心の発達(P.8-11) 2 心と体のつながり(P.12-15) 3 不安やなやみへの対処(P.16-) 2 けがの防止(P.25) 1 けがの発生 (P.26-29) 2 交通事故の防止(P.30-33) 3 学校や地域でのけがの防止(P.34-37) 4 けがの手当(P.40-43) ※発展資料6項目(P.21-23,P38-39,P44-47) 6年 3 病気の予防(P.49) 1 病気の起こり方(P.50-53) 2 病原体と病気(P.54-57) 3 生活習慣病の予防1(P.58-61) 4 生活習慣病の予防2(P.62-65) 5 喫煙の害(P.66-69) 6 飲酒の害(P.70-73) 7 薬物乱用の害(P.74-77) 8 地域のさまざまな保健活動(P.78-81) ※発展資料11項目(P.82-83,P85-88)	4年 体の発育・発達(大人に近づく体) ○体つきのちがいについて ・男子と女子の体つきの違いを、横向きの影絵で比較している。 ・体の変化がいつ起こったのかについて、インタビューという表記で、お母さん・お父さん・担任の先生(男性)・保健室の先生(女性)の4人のキャラクターを通して経験を答えている。 体の発育・発達(体の中で起こる変化) ○初経と精通について ・女子と男子の体の中で起こる変化の説明を、体の内部のイラストで説明している。 ・初経が起こったときのことは、キャラクター(中1女子)が月経が起こる不安を保健室の先生に相談してあんしんしたという経験を通して紹介している。 ・精通が起こった時のことは、キャラクター(小6男子)が精通をしてパンツがぬれたときに病気かもしれないとびっくりしたけれど、ほけんの教科書を開いて安心したという経験を通して紹介している。 体の発育・発達(発展) ○性の多様性 ・体の性と心の性の違いについて、担任の先生のキャラクターが説明している。 ・相談窓口として、「24時間子供SOSダイヤル」と「よりそいホットライン」が紹介されている。 5年 けがの防止 (けがの手当て) ○自分でできる手当ての仕方(実習) ・すりきずと切りきずの2つについて適切な手当はどれか「清潔にする・止血する・冷やして安静にする」の3択から選び考えさせた後で実際の手順を説明している。 ・その他の簡単なけがの手当として「鼻血、やけど、ねんざや打撲・つき指」について説明している。 6年 病気の予防 (生活習慣病の予防1) ○がんの取り扱いについて ・主な生活習慣病の1つとして紹介 ・「がん、心臓病、脳卒中のことを3大生活習慣病と呼ぶこともあります。」 ・日本人の死亡原因の内訳の円グラフ(厚生労働省2020年 がん27.6%第1位) ・「『がん』ってどんな病気?」というQ&A方式の発展資料(1/2ページ) ・Q.がんがどのようにして起こるの? →A.「ていこう力が低下するとおさえることができなくなり異常な細胞が増えてがんになります。」 ・Q.がんにかからないためにはどうしたらいいの? →A.「絶対にがんにかからない方法というのはありません。でも、がんのげんいんとなることをさけたり、よい生活習慣で生活したりすることでかかりにくくなります。」 ・Q.がんにかかると治らないの? →A.「およそ二人に一人ががんにかかるといわれています。がんは治せない病気ではなくなtってきています。がん検診などで早期に発見し、早期に治療を受けることができれば治る確率も高くなります。がんになっても、仕事をして希望をもって生きている人が大勢います。」	第3・4学年 「健康な生活」 ○ 自分の考えを書く活動(21) ○ 話し合う活動(3) 「体の発育・発達」 ○ 自分の考えを書く活動(23) ○ 話し合う活動(2) 「学びがつながる みらいへつながる」 ○ 自分の考えを書く活動(2) 第5・6学年 「心の健康」 ○ 自分の考えを書く活動(17) ○ 話し合う活動(2) 「けがの防止」 ○ 自分の考えを書く活動(21) ○ 話し合う活動(3) 「病気の予防」 ○ 自分の考えを書く活動(42) ○ 話し合う活動(7) 「学びがつながる みらいへつながる」 ○ 自分の考えを書く活動(2)
--------	--	---	--	---	--